

Canon

EOS 7




EYE CONTROL

使用説明書


日本語版



キヤノン製品のお買い上げありがとうございます

EOS 7は、視線入力・7点AF機能を搭載した高性能AF一眼レフカメラです。

簡単な自動撮影から高度な応用撮影まで、さまざまな撮影状況に最適対応する豊富な機能を備えています。

ご使用になる前に、カメラを手に取りながら、この使用説明書をお読みになって理解を深め、各操作に慣れた上で正しくお使いください。

本文中のマークについて

-  撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項が書かれています。
-  基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書かれています。
-  カメラ操作上あるいは撮影時のヒントが書かれています。

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、『安全上のご注意』(→6)および『取り扱い上のご注意』(→10)をお読みください。

この使用説明書は必要なときにいつでも取り出せる場所においてご利用ください。

ご使用になる前の注意

- 結婚式や海外旅行など、大切な撮影をする前には必ず試し撮りをして、カメラが正常に作動することを確認してからお出かけください。
- EOSはキヤノンEFレンズとの間で、ピントや露出を調整するために専用の電子マウントを採用しています。他社製のレンズをEOSに使用すると、カメラまたはレンズが正常に作動しないことがありますのでご注意ください。
また、EOSと他社製品の組み合わせ使用で生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますのであらかじめご了承ください。

目次

安全上のご注意	6
取り扱い上のご注意	10
すぐ撮影したい方のために	12
各部の名称	14
本使用説明書の操作説明上のお断り	20
1 撮影前の準備	21
電池のセットと容量の確認	22
レンズを取り付ける・取り外す	24
鮮明なファインダーに調整する	25
シャッターボタンとオートフォーカス	26
📷 フィルムを入れる・取り出す	27
カメラの構え方	30
2 カメラまかせの全自動撮影	31
☐ 全自動で撮る	32
👤 ポートレートで撮る	36
🏞️ 風景で撮る	37
🌸 クローズアップで撮る	38
🏃 スポーツで撮る	39
🌃 夜景で撮る	40
🕒 セルフタイマーを利用して撮る	41
📅 日付/時刻を入れて撮る	43
3 オートフォーカス(AF)と測光方式	45
AFモードの選択	46
📷 AFフレームの選択	49
CAL 視線入力AFの準備	51
👉📷 視線入力AFで撮る	56
画面の端の被写体にピンントを合わせる	58
AFの苦手な被写体	59
📷 測光モードの選択	60
4 撮影目的にあわせた自在な応用撮影	61
P プログラムAEで撮る	62
Tv シャッター速度を決めて撮る	64

Av 絞り数値を決めて撮る	66
被写界深度を確認する	67
M 自分で露出を決めて撮る	68
DEP ピントの合う範囲を決めて撮る	70
* 露出を固定して撮る／AEロック撮影	75
自分の好みに露出を補正する	76
☑ 露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影	77
長時間露光(バルブ)撮影	79
☑ 多重露出撮影	80
🔊 カメラの電子音を消す	81
ミラーアップ撮影	82
ISO フィルム感度の手動設定	83
巻き上げモードの選択	83
📶 ワイヤレスリモコンを使って撮る	84
リモートスイッチを使って撮る	84

5 ストロボを使った撮影 85

内蔵ストロボ撮影	86
EOS専用EXシリーズスピードライトを使用した撮影	89
その他のEOS専用スピードライトを使用した撮影	96

6 カスタム機能 97

カスタム機能の設定	98
カスタム機能の解除	99
カスタム機能で変更できる内容	100

資料 102

写真の基本用語解説	102
撮影機能組み合わせせー覧	104
プログラム線図	106
露出警告表示一覧表	107
「故障かな？」とお考えになる前に	108
主なアクセサリ	109
主な性能の一覧	111
索引	114

1

2

3

4

5

6

資料

安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠ **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

その他の絵表示の例

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止

- ⓪ 記号は、行為を禁止する内容を告げるものです。
- ⓪ の中に具体的な禁止内容が描かれています。

警告

電池について

-  このカメラで指定されていない電池は、使用しないでください。電池(乾電池)の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  新しい電池と古い電池を混ぜての使用はしないでください。また、違うメーカー、違う種類の電池を混ぜての使用はしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  電池を火の中に入れてたり、分解、加熱、ショートは絶対しないでください。また、水の中に入れてたりしないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  リチウム電池、アルカリ電池など充電できない電池を無理に充電しないでください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。
-  電池を取り外した場合は、お子様の手の届かないところへ置いてください。万一、飲み込んだ場合、電池の液で胃、腸が冒される恐れがありますので、ただちに医師に相談してください。
-  万一、カメラ(電池)が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常が起こった場合、そのまま使用すると火災、火傷の原因になります。火傷には、十分注意しながら速やかに電池を取り出し、お買い上げになった販売店またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
-  電池を廃棄する場合は、接点部にテープを貼るなどして絶縁してください。廃却の際、他の金属と混じると、発火、破裂の原因となります。
-  電池の「+」と「-」の向きをまちがえないようにしてください。電池の破裂、液漏れにより、火災、けがの原因となります。

警告

-  可燃性ガスの雰囲気の中で使用しないでください。爆発、火災の原因となることがあります。

ストロボについて

-  ストロボを人の目に近づけて発光しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。特に、乳幼児を撮影するときは1m以上離れてください。
-  ストロボの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。火傷の原因となります。
-  車の運転者等に向けてストロボを発光しないでください。事故の原因となります。

その他取り扱いについて

-  自分でカメラを分解、改造しないでください。内部の点検、調整、修理はお買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご依頼ください。
-  落下等により、ストロボ部分が破損した際は、内部には触れないでください。さらに、内部が露出した際は、絶対に手を触れないでください。高電圧がかかり感電する原因となります。速やかに、お買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。
-  レンズまたはレンズを付けたカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因となります。
-  湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因となります。

警告

-  カメラは、乳幼児の手の届かないところに置いてください。乳幼児が誤ってストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
-  自動車などの運転中に運転者は、カメラを絶対に操作しないでください。交通事故の原因となります。

注意

-  カメラを高温状態の車の中に放置したり、熱いものの近くに置いたりしないでください。カメラ自体が高温になり、触ると火傷の原因となることがあります。
-  カメラを低温状態中に放置しないでください。カメラ自体が低温になり、触るとけがの原因となることがあります。
-  レンズまたはレンズを付けた一眼レフカメラを、レンズキャップを外したまま日光の下に放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。
-  カメラをストラップで下げているときは、他の物に引っ掛かったりしないように注意してください。けがをする原因となることがあります。
-  カメラを三脚に取り付けたまま移動しないでください。付けたまま移動するとつまずいたり、ぶつかけたりしてけがや事故の原因となることがあります。また、三脚はカメラ・レンズに対して十分に強度のあるものをご使用ください。
-  万一、カメラごと水に落としたり、内部に水が入った場合は、電池を抜いて、速やかに、お買い上げになった販売店、またはキヤノンサービスセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となることがあります。

取り扱い上のご注意

手入れと保管について

- (1) カメラは精密機械です。落としたりショックを与えたりしないでください。
- (2) このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一、使用中に濡れてしまったときは、早めに最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- (3) 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますのでこのような中にカメラを放置しないでください。
- (4) カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に分解しないでください。
- (5) レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーン、フィルム室内などにゴミが付いているときは、市販のブローブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
- (6) シャッター幕は非常に薄い幕でできています。お手入れには必ずブローを使用し、あまり強く吹かないでください。強く吹くとシャッター幕の変形や破損の恐れがあります。またフィルムを出し入れする際にもシャッター幕に触れないようご注意ください。
- (7) カメラの電気接点は手で触らないでください。腐蝕の原因となることがあります。腐蝕が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- (8) カメラを長期間使用しないときは電池室から電池を抜き取り、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- (9) カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所はサビ・腐蝕などの原因になるため避けてください。同様にタンスの中なども避けてください。
- (10) 長期間使用しなかった後や、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- (11) レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷付けないように、取り付け面を上にして置いてください。
- (12) モードダイヤルを<OFF>にしても、カメラは表示パネルのために微弱な電流を必要としますが、撮影本数には影響ありません。

表示パネルについて

カメラの表示パネルやファインダー内表示は液晶を使用しています。液晶はその性質上、通常の使用でも表示が薄くなり読みにくくなる場合があります。その場合は最寄りのキヤノンサービスセンターで液晶の交換をご用命ください（有料）。なお、液晶の特性で低温下で表示反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

リチウム電池について

- (1) カメラはリチウム電池CR123A 2本を正しく入れて、はじめて作動します。次のようなときは、まず電池の容量を確認してください。（→22）
 - 電池を交換したとき
 - 長期間カメラを使用しなかったとき
 - シャッターが切れなくなったとき
 - 寒冷地で撮影するとき
 - 大切な写真を撮るとき
- (2) 電池をカメラに入れるときは、電池の接点の汚れや指紋などをよくふき取ってください。そのまま入れると接触不良や腐蝕の原因となることがあります。
- (3) 電池の分解や充電、高温下での放置、および接点をショートさせたり火の中に投げ入れることは、危険ですので絶対にしないでください。
- (4) リチウム電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池の性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。

電圧の低下とカメラの作動について

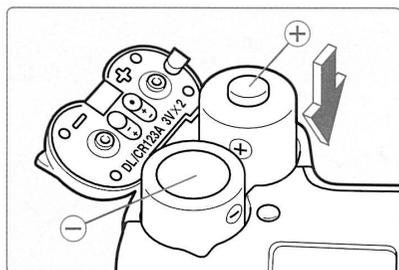
表示パネルの〈〉が点滅または無表示になっても、シャッターが切れれば適正な写真が撮影されます。ただし、電池の容量が低下してくると、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあり、表示パネルに〈〉が点滅します。新品の電池に交換すると、フィルムの巻き上げは継続され、フィルムの巻き戻しは〈〉ボタンを押せば継続されます。

レンズの接点について

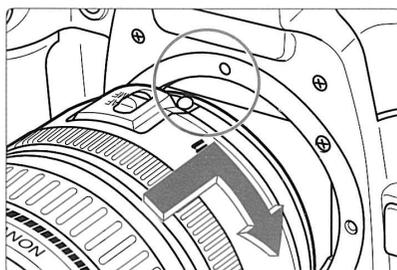
レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



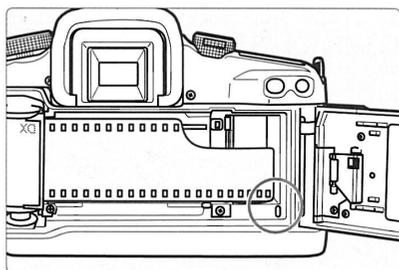
すぐ撮影したい方のために



- 1 電池を入れる**
電池室ふたの表示にしたがってリチウム電池CR123Aを2本入れます。(→22)



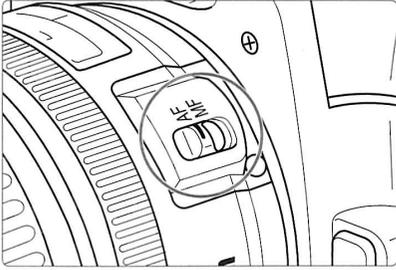
- 2 レンズを取り付ける**
レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。(→24)



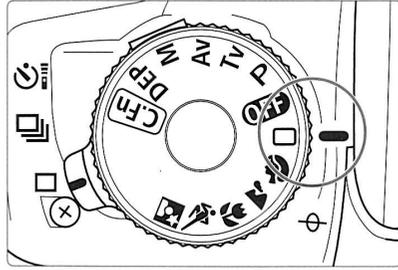
- 5 フィルムを入れる**
フィルムの先をオレンジ色のマークに合わせ、「パチン」と音がするまで背ぶたを閉じます。(→27)
●フィルムは最初の撮影コマまで巻き上げられます。



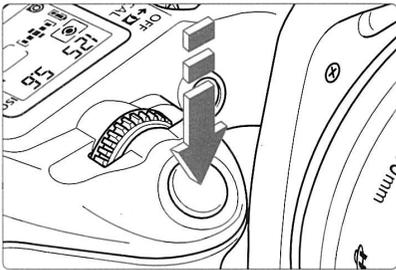
- 6 ピントを合わせる**
写したいもの(被写体)にAFフレームを合わせ、軽くシャッターボタンを押して、ピントを合わせます。(→26)
●暗いときや日中逆光時には、内蔵ストロボが自動的に上がります。(→86)



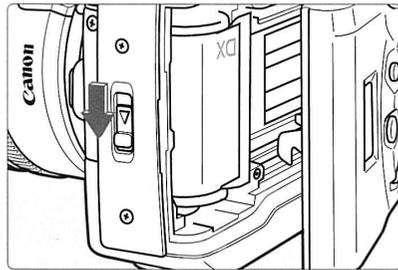
3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする
(→24)



4 モードダイヤルを〈□〉(全自動)にする
モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら回します。
(→32)



7 撮影する
さらにシャッターボタンを押して撮影します。(→26)

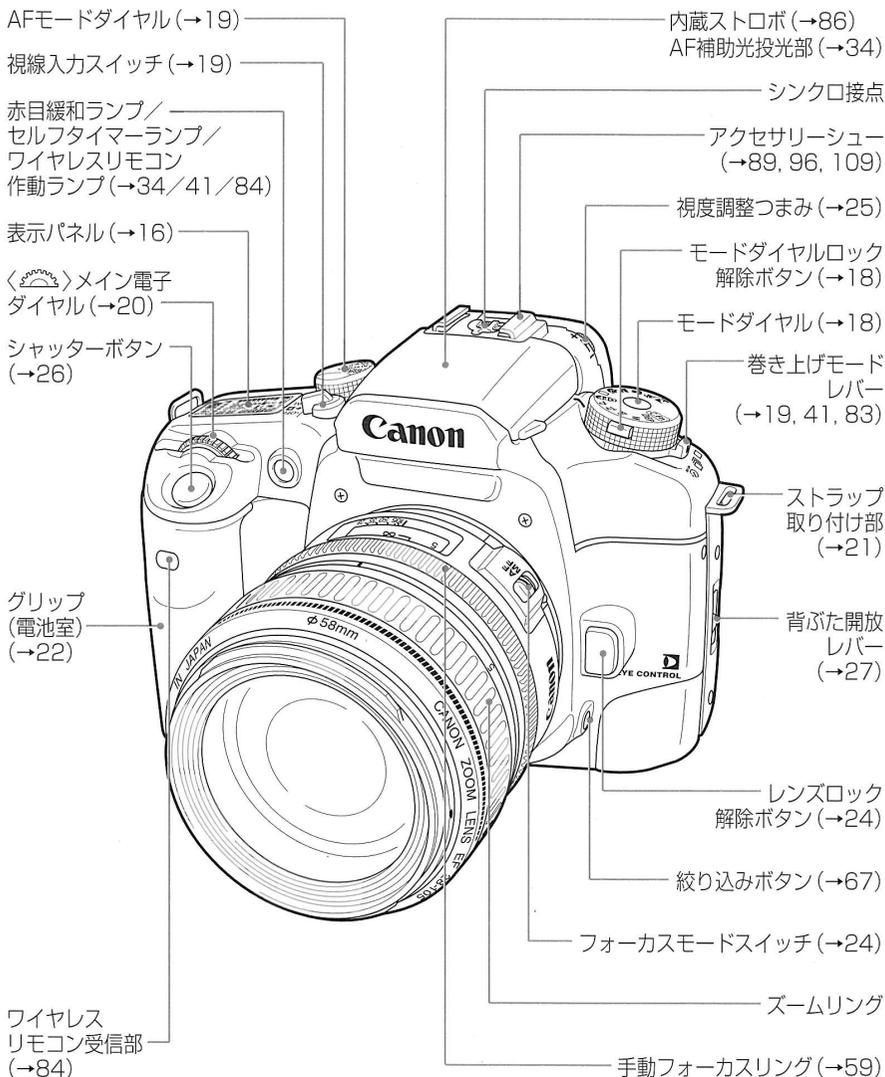


8 フィルムを取り出す
フィルムを撮り終わると自動的に巻き戻しが始まります。
背ぶたを開けてフィルムを取り出します。(→29)

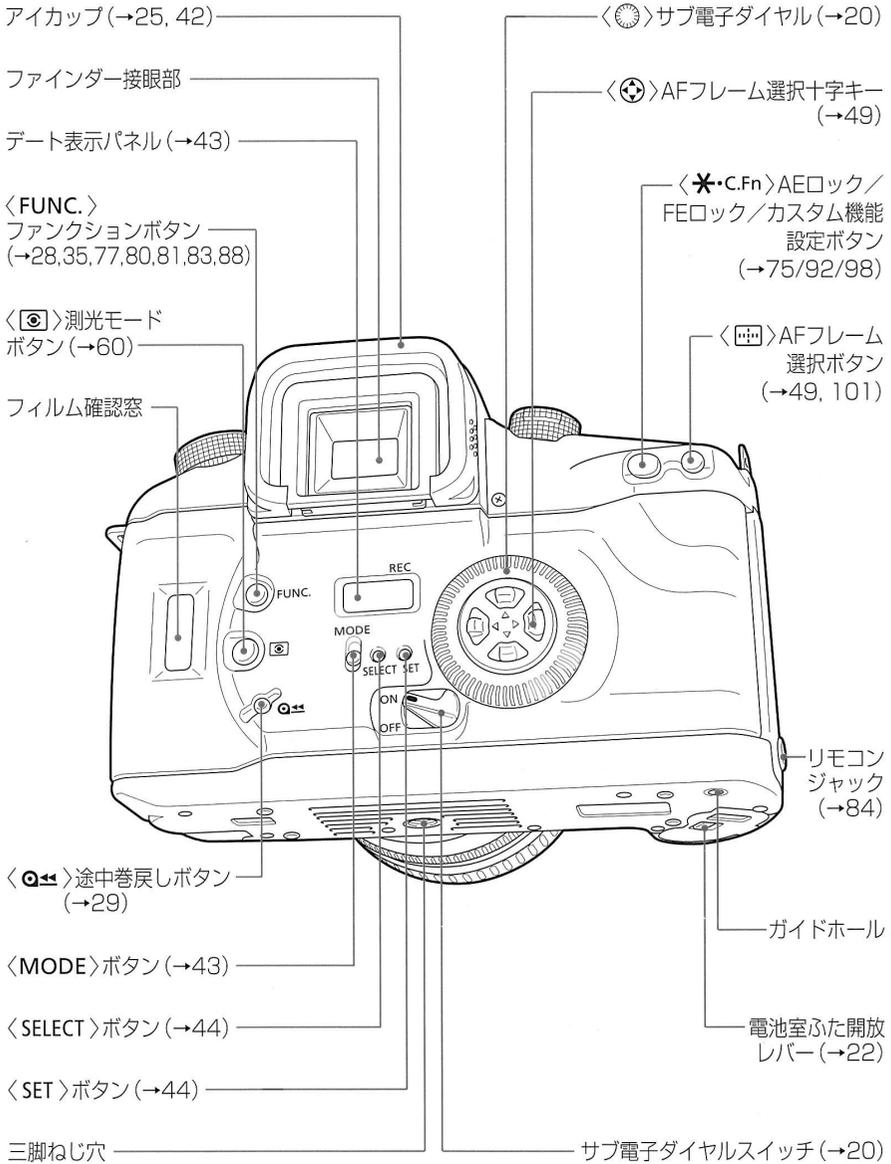
各部の名称

● (→■) の数字は参照ページを示しています。

● 本文では各部の操作をくゝ内のマークを用いて説明しています。

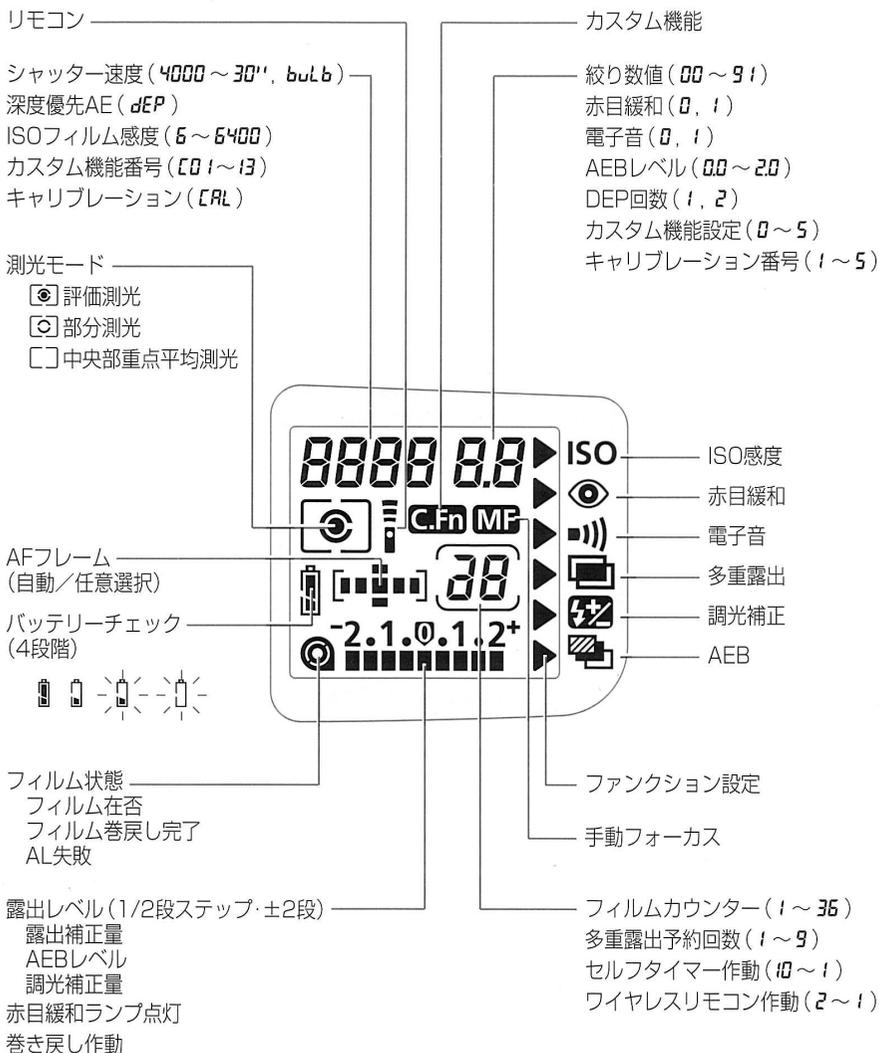


各部の名称



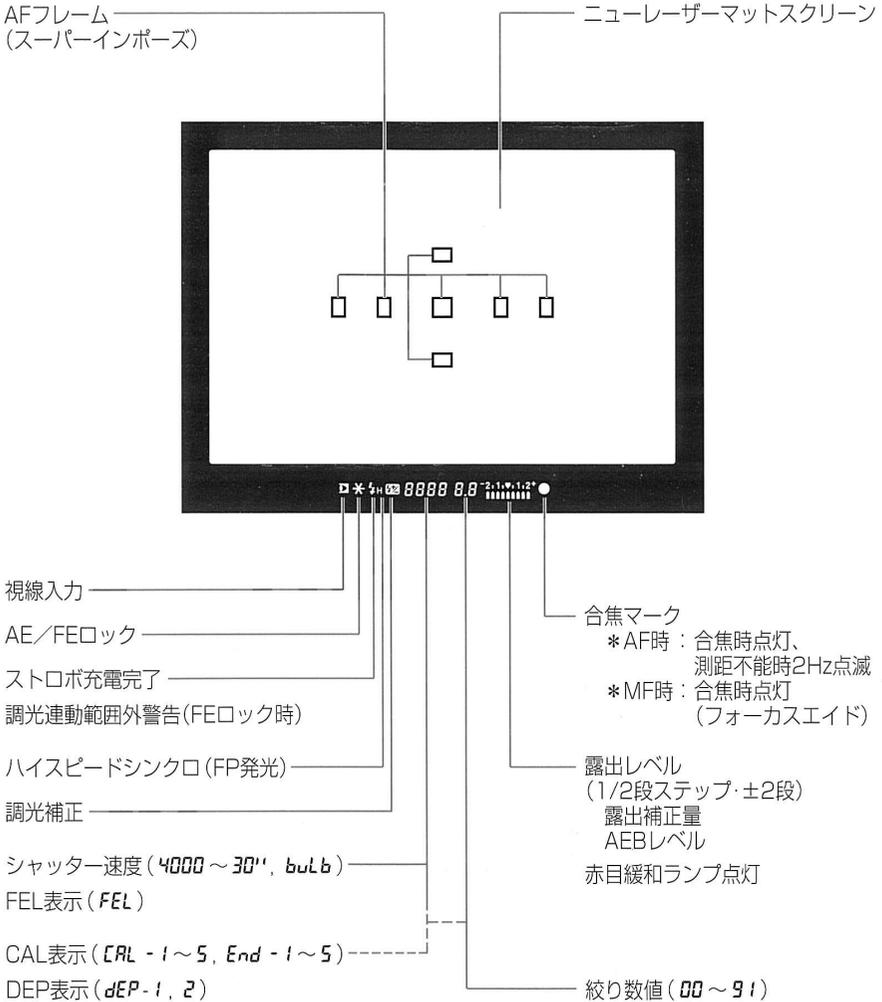
各部の名称

表示パネル



● 設定されているファンクションの横に<▶>が表示されます。

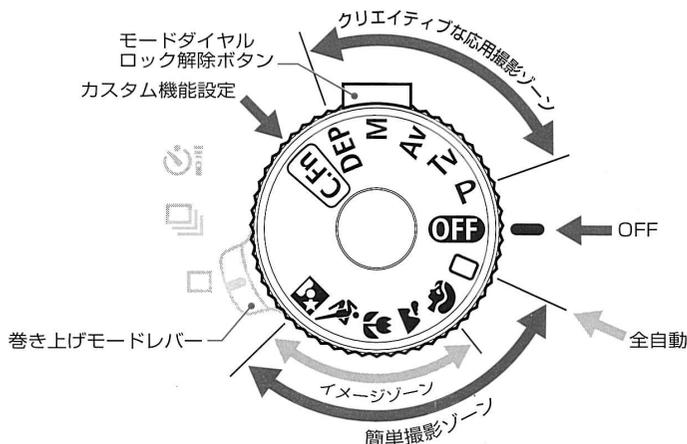
ファインダー内表示



● 16、17ページの図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

- モードダイヤルは4つの機能ゾーンに分けられています。
- モードダイヤルはく**OFF**でロックされます。ロックを解除するときは、モードダイヤルロック解除ボタンを押しながら回します。



① 簡単撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。

 : 全自動 (→32)

カメラまかせの全自動撮影ができます。

イメージゾーン

被写体別にカメラまかせの全自動撮影ができます。

 : ポートレート (→36)

 : 風景 (→37)

 : クローズアップ (→38)

 : スポーツ (→39)

 : 夜景 (→40)

② クリエイティブな応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P : プログラムAE (→62)

Tv : シャッター優先AE (→64)

Av : 絞り優先AE (→66)

M : マニュアル露出 (→68)

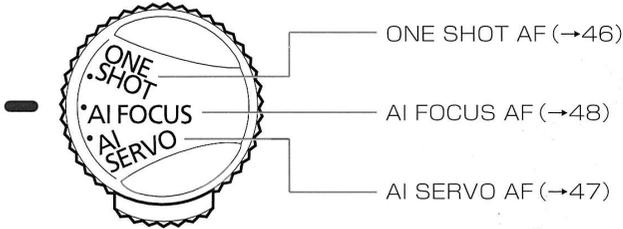
DEP : 深度優先AE (→70)

③ カスタム機能設定

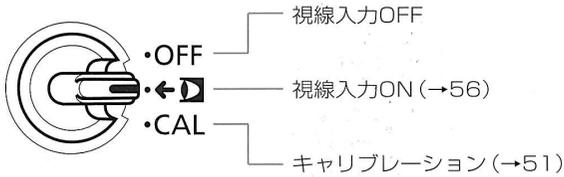
C.Fn : カスタムファンクション (→97)

④ **OFF** : OFF

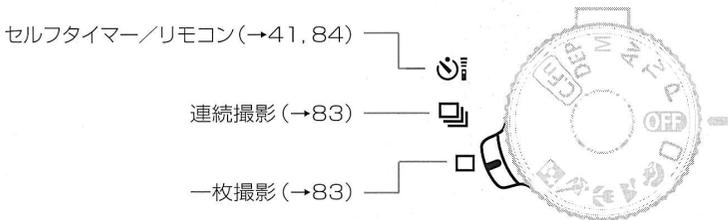
AFモードダイヤル



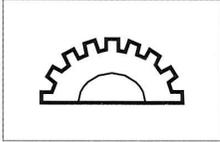
視線入力スイッチ



巻き上げモードレバー



本使用説明書の操作説明上のお断り



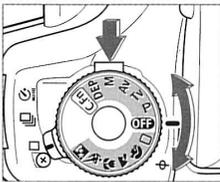
- 本文中の〈〉はメイン電子ダイヤルを示しています。



- 本文中の〈〉はサブ電子ダイヤルを示しています。〈〉を操作するときは、サブ電子ダイヤルスイッチを〈ON〉にしてください。



- 本文中で左記のマークをつけて、それぞれの機能に関するカスタム機能の簡単なガイドを行っています。詳細については『カスタム機能』(→97)を参照してください。



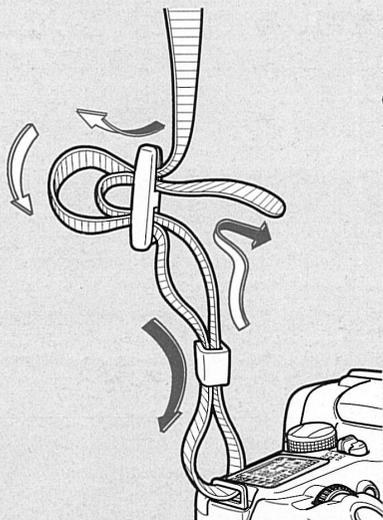
- モードダイヤルが〈OFF〉以外になっていることを前提に操作方法を説明しています。各操作をする前に、ロック解除ボタンを押しながら、モードダイヤルを撮影モードにしてください。

- (→■)の数字は参照ページを示しています。
- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明にはボタンやダイヤル、マークなど、カメラに表示されている絵文字を使用しています。『各部の名称』(→14)を参照してください。
- 本使用説明書ではEF28-105mm F3.5-4.5 II USMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- カスタム機能は初期設定状態を前提に説明しています。
- (♻4)/(♻6)/(♻16)はボタンから指を離しても、その状態がタイマーによりそれぞれ4秒間/6秒間/16秒間保持されることを示しています。

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。初めての方は、この章から順番にお読みください。

1

撮影前の準備



ストラップ(吊りひも)の取り付け方

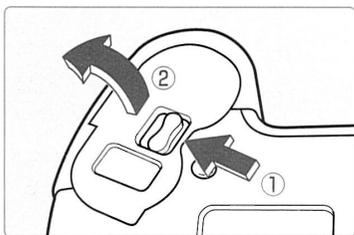
ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている止め具の内側を通します。ストラップを引っ張っても止め具の部分でゆるまないことを確認してください。

- ストラップにはアイピースカバーが付いています。(→42)

電池のセットと容量の確認

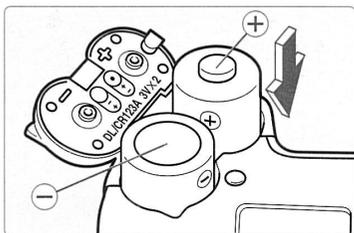
電池をセットする

電池はリチウム電池CR123A/DL123Aを2本使用します。



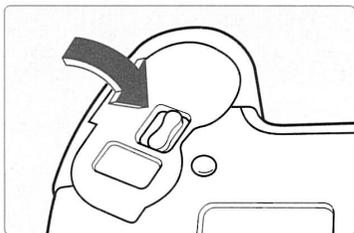
1 ふたを開く

- 電池室ふた開放レバーを矢印の方向にスライドさせて電池室ふたを開きます。



2 電池を入れる

- 「+」「-」をまちがえないよう電池室ふたの表示にしたがって電池を入れます。
- 古い電池と新しい電池を混ぜて使わないでください。



3 ふたを閉じる

- 「カチッ」と音がするまで電池室ふたを押します。



地域によっては電池の入手が困難なことがあります。海外旅行に出かけるときや、写真を撮るときは、予備の電池を用意してください。



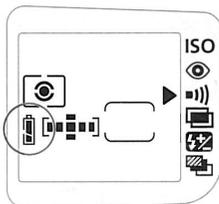
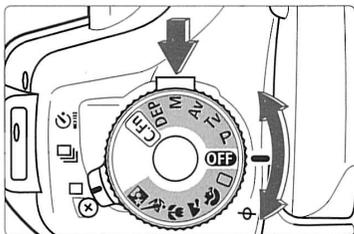
Ni-MH

使用後はリサイクルへ

ニッケル水素電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。
リサイクルについては、ご購入販売店にお問い合わせください。

電池容量を確認する

電池を交換したときや撮影の前などには、電池の容量を確認してください。



モードダイヤルを撮影モードにする

- ロック解除ボタンを押しながら回します。
- 電源が入り表示パネルにバッテリーチェックマークが表示されます。

- : 電池の容量は十分です。
- : 電池の残量が少なくなっています。新しい電池を用意して下さい。
- : もうすぐ電池切れになります。
- : 新しい電池と交換してください。(→11)

撮影可能フィルム本数(24枚撮りフィルム)

[本]

温度	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影	全てストロボ撮影
常温 (+20℃)	115 (125)	33 (38)	17 (19)
低温 (-20℃)	65 (70)	19 (20)	9 (10)

- 撮影本数は新品電池、EF50mm F1.4 USMレンズを使用、当社試験条件による本数です。

- ()内は視線入力なしのときの撮影本数です。



- 表示パネルに何も表示されない場合は、電池が逆向きに入っていることが考えられます。正しい向きに入れ直してください。(→22)

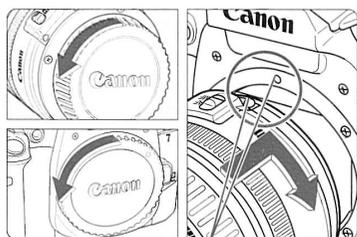
- シャッターボタン半押しの状態を長く続けたり、AFのみを行って撮影しないという操作を頻繁に行うと、撮影本数が少なくなります。



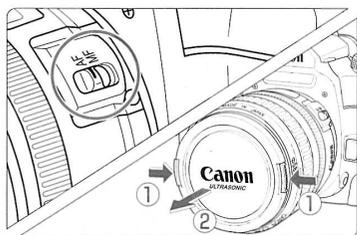
- カメラを使用しないときは、不用意な作動をさけるため、モードダイヤルを<OFF>にしてください。

レンズを取り付ける・取り外す

レンズの取り付け方



レンズ取り付け指標



1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

2 レンズを取り付ける

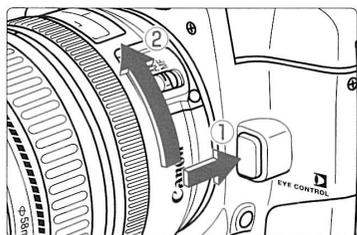
- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈MF〉(あるいは〈M〉)になっているとオートフォーカスできません。そのときは表示パネルに〈MF〉が表示されます。

4 レンズキャップを外す

レンズの取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

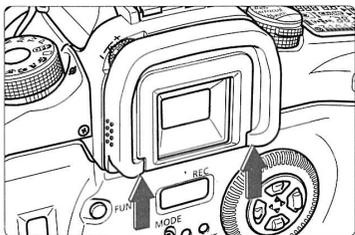
- レンズ取り付け指標が真上になるまで回してから、取り外します。



- 外したダストキャップ、ボディキャップ、レンズキャップはなくさないように保管してください。
- AFはAuto Focus (オートフォーカス) の略で自動焦点のことです。
- MF、MはManual Focus (マニュアルフォーカス) の略で手動焦点のことです。

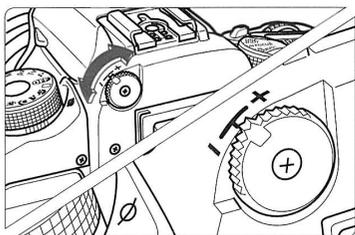
鮮明なファインダーに調整する

ファインダー内が鮮明に見えるように調整します。視度調整することによってメガネを使用している方でも、メガネをかけずにファインダー内をはっきり見ることができます。調整は、 $-2.5 \sim +0.5$ dptの範囲で行うことができます。



1 アイカップを外す

- アイカップの下側の両端を押し上げて取り外します。



2 視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレームが最も鮮明に見えるまで、つまみを右または左に回します。
- 図の位置が標準 (-1 dpt) の位置です。

3 アイカップを接眼部に取り付ける



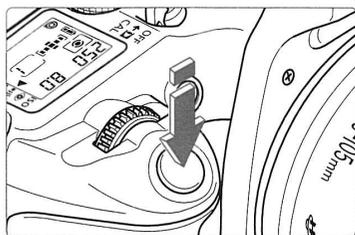
視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズ (Edシリーズ) を使用してください。

シャッターボタンとオートフォーカス

EOSのシャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで軽く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。

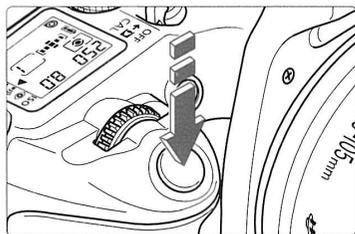
シャッターボタンの半押しと全押し

シャッターボタンは次のような働きをします。



半押し

- オートフォーカス (AF、自動焦点) が働き、写したいもの (被写体) にピントが合うとAFフレームが一瞬赤く光って「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内右下に合焦マーク (●) が点灯します。
- 同時にシャッター速度と絞り数値の組み合わせ (露出) が決まり、表示パネルとファインダー内に表示されます。



全押し

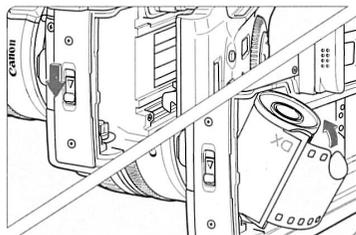
- シャッターが切れて撮影が行われ、自動的にフィルムが巻き上げられます。



- シャッターが切れる瞬間にカメラが動くことを「手ブレ」といい、全体がぼけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために (→30) 次の点に注意してください。
 - ・カメラが動かないようにしっかり構えてください。
 - ・シャッターボタンに指の腹をかけ、カメラ全体を握るような感じで、静かに押します。
- AFモードダイヤルをく SERVO にすると合焦マーク (●) は点灯しません。
- AFモードダイヤルをく SERVO にして、AFフレームを自動選択 (→49) に設定するとAFフレームは赤く光りません。

◎フィルムを入れる・取り出す

フィルムを入れる

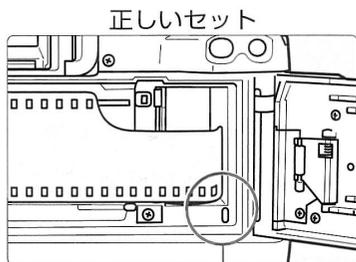


1 背ぶたを開く

- 背ぶた開放レバーを下げ、背ぶたを開きます。

2 フィルムを図のように少し斜めにして入れる

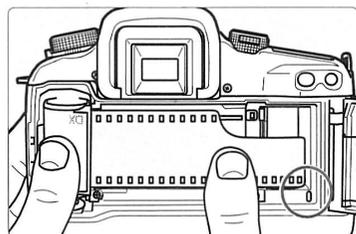
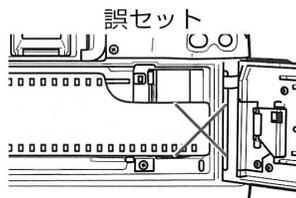
- モードダイヤルをく**OFF**以外にしておきます。



オレンジマーク

3 フィルムの先端をオレンジマーク (フィルム先端指標) に合わせる

- パトローネ (フィルム容器) を押さえながらフィルムを引き出します。
- フィルムを引き出し過ぎたときはパトローネ内に少し巻き戻します。



4 背ぶたを閉じる

- フィルムの先端がオレンジマークに合っていることを確認して、背ぶたを「パチン」というまで閉じます。
 - 自動的にフィルムを巻き上げます。
 - 巻き上げが終わるとく◎とフィルムカウンターに「！」が表示されます。

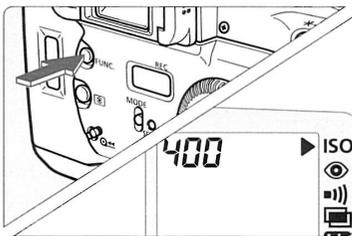
㊟ フィルムを入れる・取り出す

- シャッター幕は非常に高い精度で加工されています。絶対に手を触れないでください。また、フィルムを入れる際に誤って指やフィルムでシャッター幕を破損・変形させないように十分ご注意ください。
 - 高温・高湿環境下で撮影する場合、フィルムはカメラに入れる直前に梱包から取り出してください。
-  ● フィルムが正しくセットされないと表示パネルの<㊟>が点滅し、シャッターが切れません。フィルムを正しく入れ直してください。
- 赤外フィルムは使用できません。

フィルム感度の設定確認

フィルム感度は、カメラがフィルムのDXコードを読み取ることにより自動設定されます。自動設定されるフィルム感度の範囲は、ISO 25～5000です。

- モードダイヤルを応用撮影ゾーンにします。



<FUNC.> ボタンを押して、<▶>
マークを<ISO>に合わせる

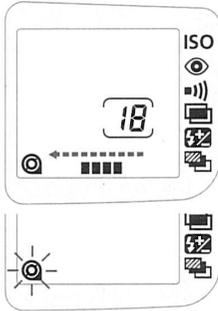
→表示パネルにフィルムの感度が表示されます。

-  フィルムに記載されている感度とは異なる感度を設定する場合や、DXコードが付いていないフィルムを使用する場合は、『フィルム感度の手動設定』(→83)をお読みください。

C.Fn DXコードによるフィルム感度の自動設定を禁止することができます。(C.Fn-3-1→100)

フィルムを取り出す

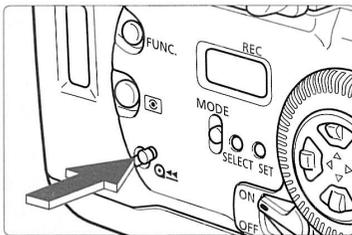
フィルムの最後のコマを撮影すると自動的に巻き戻しが始まります。



- 巻き戻しが始まると、表示パネルのフィルム巻き戻し表示が右から左に動いて巻き戻し中であることを示します。同時にフィルムカウンターの数字も一つずつ減っていきます。
- 巻き戻しが終了すると自動的に巻き戻しは停止します。表示パネルの〈◎〉が点滅していることを確認してからフィルムを取り出します。

◎◀ フィルム途中巻き戻し

フィルムを撮り終える前に取り出すときは次のようにします。



- 1 〈◎◀〉ボタンを押す
→ フィルムの巻き戻しが始まります。そのときの表示は自動巻き戻しと同じです。
- 2 フィルムを取り出す
● 表示パネルの〈◎〉が点滅していることを確認してから取り出します。

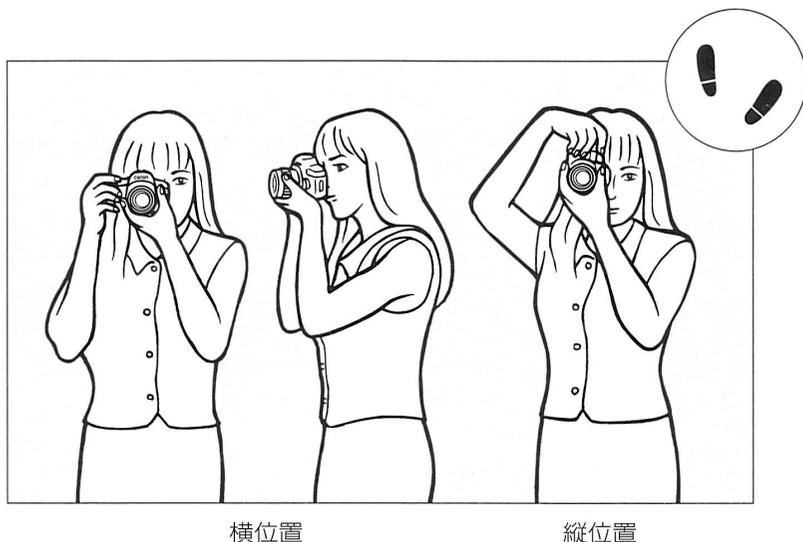
 フィルム巻き戻し中に、〈◎◀〉ボタンを押すと、高速巻き戻しと低速(サイレント)巻き戻しの切り換えを行うことができます。

C.Fn フィルムの巻き戻し速度を変更することができます。(C.Fn-1→100)

C.Fn 巻き戻しが終わるとフィルムの先端をパトローネに巻き込みますが、これを巻き込まないようにすることができます。(C.Fn-2-1→100)

カメラの構え方

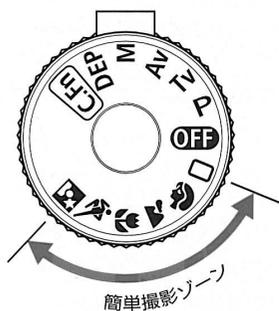
鮮明な写真を撮るために、カメラが動かないようしっかりと構えて撮影します。



- カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体につけます。
- 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
- カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
- 両足はそろえずに片足を軽く踏み出して体を安定させます。

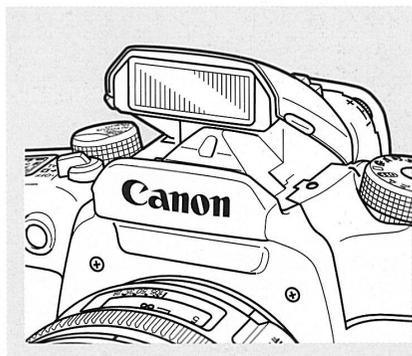


このカメラはカメラの横位置、縦位置を自動的に検出しています。カメラの構え方（横位置、縦位置）を変えると、カメラ内でこの検出機構が発する小さな音がします。



この章では、モードダイヤルの簡単撮影ゾーン〈〉、〈〉、〈〉、〈〉、〈〉を使って気軽に写真を撮る方法を説明しています。このゾーンでは、すべてが自動設定され、シャッターボタンを押せば、誰でもカメラまかせで撮影できます。また、誤操作による失敗を防ぐため、〈〉、〈〉、AFモードダイヤル、巻き上げモードレバー(〈〉を除く)、および各種操作ボタン(〈FUNC.〉、〈〉を除く)による操作・設定はできないようにしてありますので、安心して撮影できます。

カメラまかせの 全自動撮影

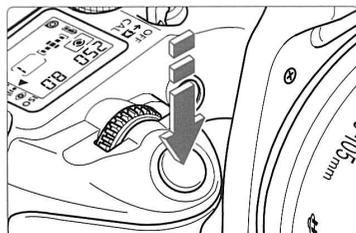


- 簡単撮影ゾーン(〈〉、〈〉を除く)では、暗いときや日中逆光時には必要に応じて内蔵ストロボ(→86)が自動的に上がって発光します。
- 簡単撮影ゾーンで自動設定される機能の内容は『撮影機能の組み合わせ一覧』(→104)をご覧ください。



4 表示を確認する

→ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。



5 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。



- AFでピントが合うと同時に、ピントと露出はロックされます。
- 合焦マーク(●)が点滅するときは、撮影できません。(→59)
- 7つのAFフレームでとらえた被写体のうち、原則としてもっとも近距離にある被写体に、自動的にピントが合います。
- 複数のAFフレームマークが同時に点灯することがあります。そのときは、点灯したAFフレームでとらえたすべての位置にピントが合っています。

□ 全自動で撮る

内蔵ストロボの自動発光について

簡単撮影ゾーン(〈〉、〈〉を除く)では、暗いときや、日中逆光時には、内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。収納するときは、手で押し下げます。

 誤ってストロボの自動ポップアップを阻害した場合は、表示パネルの〈〉が点滅して警告します。そのときは、シャッターボタンを半押しすると正常に戻ります。

 内蔵ストロボの使用上の注意などに関しては、『内蔵ストロボ撮影』(→86)を参照してください。

 ストロボ撮影が禁止されている場所や、室内の照明を利用して撮影するときは、〈P〉(プログラムAE)(→62)をおすすめします。

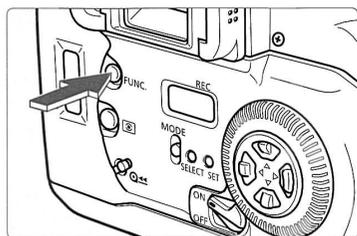
内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするため(AF補助光)です。

-  ● 〈〉、〈〉では、AF補助光は光りません。
- 内蔵ストロボによるAF補助光によってピントが合う範囲は約4mまでです。
 - 応用撮影ゾーンでは、ストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が光ります。
 - EOS専用外付けストロボ使用時は、外付けストロボに内蔵されたAF補助光が光ります。

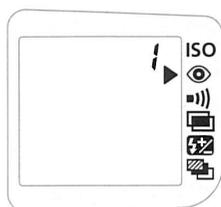
👁️ 赤目緩和機能を使う

夜や暗い室内などで人物をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これを「赤目現象」と言い、ストロボの光が目の網膜に反射して起こります。赤目緩和機能を使うと、ストロボ撮影するときに目にやさしい赤目緩和ランプが点灯し、写る人のひとみを小さくして赤目現象を起こりにくくします。赤目緩和機能は〈〉、〈〉以外のすべての撮影モードで機能します。



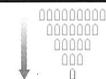
1 <▶>マークを<◎>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押して設定します。(♯6)



2 表示を「!」にする

- <◀>を回して、設定します。
- 解除するときは、表示を「!」にします。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。
- 撮影準備状態に戻ったあと、シャッターボタンを半押しすると、表示パネルとファインダー内に赤目緩和ランプ点灯表示が行われます。



赤目緩和ランプ
点灯表示



- 写される人がランプを注視していないと効果がありませんので、写される人がランプを見るように声をかけてください。
- 効果的な赤目緩和撮影のためには、約1.5秒間の赤目緩和ランプ点灯表示が消えてからシャッターボタンを全押ししてください。
- 赤目緩和ランプ点灯中でも、シャッターボタンを全押しすると撮影できます。
- 赤目緩和効果の度合いには個人差があります。

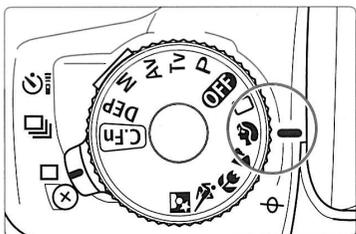


室内を明るくしたり、写したい人に近づくとより効果的です。

👤 ポートレートで撮る



背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮るようなときに使用します。



モードダイヤルをく👤にする

- 撮影の手順は『□ 全自動で撮る』(→ 32)と同じです。
- ➔ AFモードはくONE SHOT>、巻き上げモードはく📷>、測光モードはく☉>に自動設定されます。

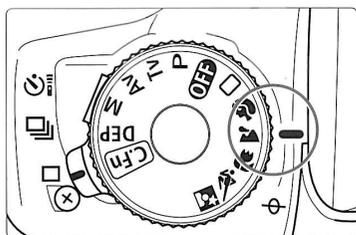


- 被写体の上半身がファインダーいっぱいになるくらいにすると、背景を効果的にぼかすことができます。また被写体をできるだけ背景から離すとより効果的です。
- 望遠系レンズを使用すると背景をさらにぼかすことができます。ズームレンズをお使いの方は、レンズを望遠側(28-105mmのレンズなら105mm)にすると効果的です。

風景で撮る



広がりのある風景や夜景などを撮るようなときに使用します。



モードダイヤルを<山>にする

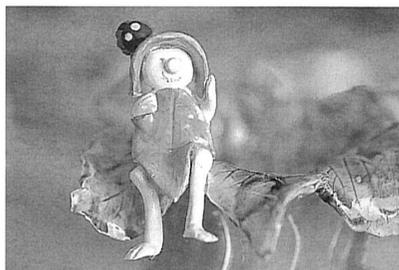
- 撮影の手順は『□ 全自動で撮る』(→ 32)と同じです。
- ➔ AFモードは<ONE SHOT>、巻き上げモードは<□>(一枚撮影)、測光モードは<☉>に自動設定されます。

🔊 シャッター速度が点滅したときは、シャッター速度が遅くなり手ブレが起きやすくなります。三脚を使用して撮影することをおすすめします(三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません)。

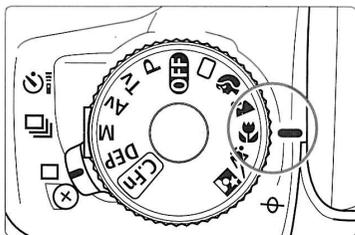
📄 内蔵ストロボが上がった状態で撮影してもストロボは光りません。

💡 広角系レンズを使用すると、近くから遠くまでの奥行きに加えて、横の広がりも表現することができます。ズームレンズをお使いの方は、レンズを広角側(28-105mmのレンズなら28mm)にすると効果的です。

🌸 クローズアップで撮る



草花や昆虫などを大きく撮るようなときに使用します。



モードダイヤルを🌸にする

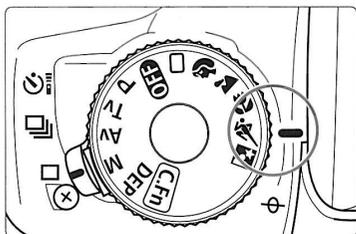
- 撮影の手順は『□ 全自動で撮る』(→ 32)と同じです。
- AFモードは<ONE SHOT>、巻き上げモードは<□>(一枚撮影)、測光モードは<☉>に自動設定されます。

- 💡 ●できるだけ使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影すると効果的です。
- ズームレンズの場合は、望遠側にすると被写体をさらに大きく撮影することができます。
- 本格的なクローズアップ撮影には、EOS専用マクロレンズとマクロリングライトMR-14EXの使用をおすすめします。

スポーツで撮る



スポーツや運動会などで、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮るようなときに使用します。



モードダイヤルを〈S〉にする

- 撮影の手順は『□ 全自動で撮る』(→ 32)と同じです。
- AFモードは〈^{AL}SERVO〉、巻き上げモードは〈〉、測光モードは〈〉に自動設定されます。
- ピントが合っても合焦マークく●〉は点灯しません。

⚠ シャッター速度が点滅したときは、シャッター速度が遅くなり手ブレが起きやすくなります。カメラの構え方とシャッターボタンの押し方に十分注意するか、三脚を使用して撮影することをおすすめします(三脚を使用してもシャッター速度の点滅は消えません)。

📷 内蔵ストロボが上がった状態で撮影してもストロボは光りません。

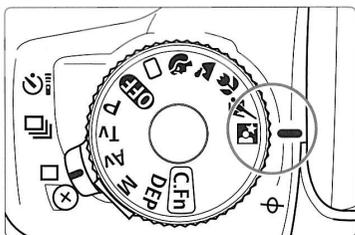
- 💡 ● ISO 400以上の高感度フィルムを使うことをおすすめします。
- スポーツ撮影には、200mm～300mm程度の望遠レンズをおすすめします。

夜景で撮る



夕暮れや夜景を背景にした人物を撮影するときには使用します。

人物にはストロボ光があたり、背景は遅いシャッター速度でそれぞれをきれいに撮影することができます。



モードダイヤルを<📷>にする

- 撮影の手順は『 全自動で撮る』(→ 32)と同じです。
- ➔ AFモードは<ONE SHOT>、巻き上げモードは<📷>(一枚撮影)、測光モードは<☉>に自動設定されます。

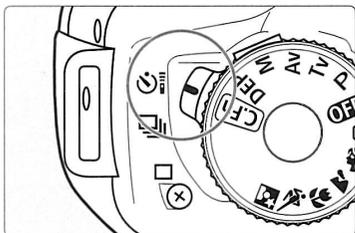
 手ブレを防ぐために必ず三脚をお使いください。

-  ● 人物が入らない夜景のみを撮影するときは<📷>で撮影してください。
- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写真を撮られる人に声をかけてください。
- セルフトイマーを併用した時は、赤目緩和ランプが一瞬光って撮影終了を示します。
- EOS専用外付けストロボ使用時も<📷>で撮影できます。
- <📷>で日中に撮影すると、<📷>(全自動)と同じ撮影結果になります。

 ISO 400以上の高感度フィルムを使うことをおすすめします。

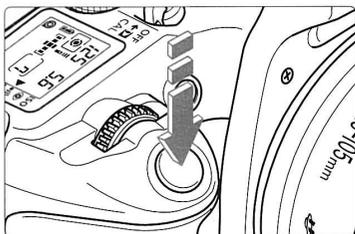
🕒 セルフタイマーを利用して撮る

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。簡単撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも使えます。セルフタイマー撮影をするときは三脚をお使いください。



1 巻き上げモードレバーをく🕒にする

→表示パネルにく🕒が表示されます。



2 撮影する

- 撮影の手順は『□ 全自動で撮る』(→32)と同じです。
- シャッターボタンを全押しすると、電子音が鳴り、同時に赤目緩和ランプが光り、10秒後に撮影されます。
最初の8秒間：ゆっくりピッ、ピッ音
／ランプ点滅
最後の2秒間：早くピピピピ音
／ランプ点灯
- セルフタイマー作動中は、表示パネルにシャッターが切れるまでの秒数が減算で表示されます。
- 途中で中止するときは、巻き上げモードレバーをく□(一枚撮影)またはく📷の位置にします。

📌 レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、ねらった被写体にピントが合わなくなります。

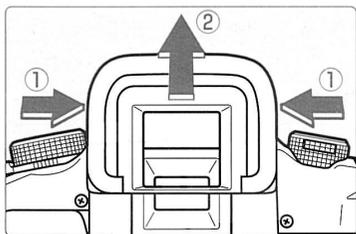
📷 セルフタイマーを利用して撮る



- 電子音を鳴らさないようにすることができます。(→81)
- ファインダーから目を離してセルフタイマー撮影するときは、アイピースカバーを接眼部に取り付けてからシャッターボタンを押してください。
- 視線入力AFでセルフタイマー撮影するときは、ファインダーをのぞいたままシャッターボタンを全押ししてください。
- 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック(→58)してから撮影します。
- リモートコントローラーRC-1(別売)、リモートスイッチRS-60E3(別売)を利用すると、カメラから離れてシャッターを切ることができます。(→84)

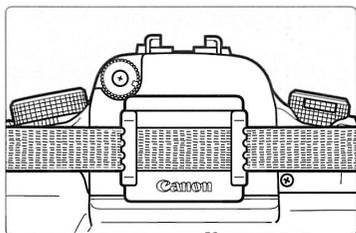
アイピースカバーを使う

セルフタイマーやワイヤレスリモコン(別売)、リモートスイッチ(別売)を使うときなど、ファインダーから目を離した状態で撮影すると、ファインダーから入った光で露出が狂うことがあります。そのようなときは、ファインダー接眼部にアイピースカバーを取り付けてください。



1 アイカップを外す

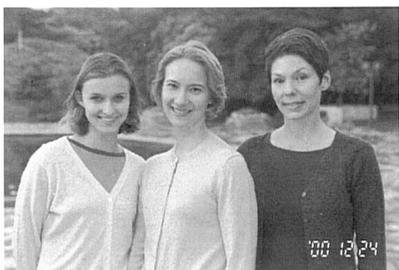
- アイカップの両脇をつまんだまま引き上げて取り外します。



2 アイピースカバーを接眼部に取り付ける

- アイピースカバーはストラップのベルト部分の端にあります。

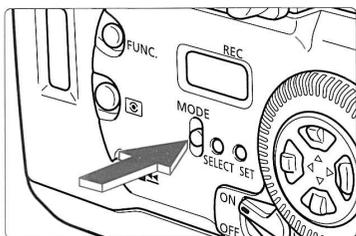
日付／時刻を入れて撮る



日付／時刻は上の写真のように画面の右下に写し込まれます。

このカメラには2019年までのオートカレンダーが組み込まれたクォーツデートがついています。撮影と同時に日付や時刻を、左に示す写真の位置に写し込むことができます。なお、日付／時刻を写し込まないようにすることもできます。

日付／時刻は簡単撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも写し込むことができます。



〈MODE〉ボタンを押す

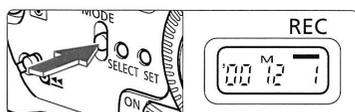
→ データ表示パネルの表示が次のように変わります。

〈年月日〉表示		(2000年12月24日)
↓		
〈日時分〉表示		(24日16時45分)
↓		
〈ハイフン〉表示		(何も写し込まない)
↓		
〈月日年〉表示		(12月24日2000年)
↓		
〈日月年〉表示		(24日12月2000年)

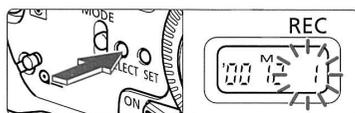
- 〈M〉は「月」を表します。
- 〈—〉は写し込みを確認するマークです。撮影すると点滅して日付／時刻の写し込みを知らせます。

日付／時刻を変更する

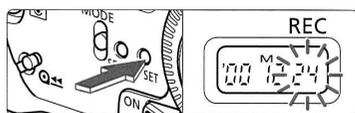
日付や時刻を変更するときは次のようにします。



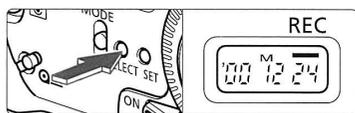
- 1 日付／時刻を選ぶ**
●〈MODE〉ボタンを押します。



- 2 修正する数字を点滅させる**
●〈SELECT〉ボタンを押します。



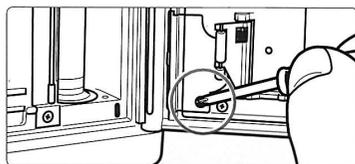
- 3 正しい数字を設定する**
●〈SET〉ボタンを押します。



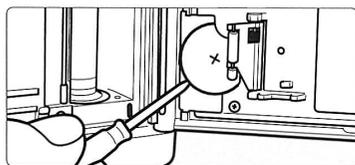
- 4 日付／時刻の変更を終了する**
●点滅している数字がなくなるまで
〈SELECT〉ボタンを押します。

クォーツデー用電池の交換

写真に写込まれた数値がうすくなったら電池を交換してください。電池の寿命は約3年です。電池はリチウム電池CR2025を1個使用します。



- 1 電池室ふたを取り外す**
●背ぶたを開け、図に示すねじをゆるめます。

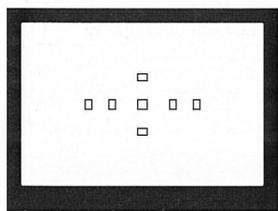


- 2 電池を取り出す**



- 3 新しい電池を入れる**
●電池の「+」側を上にして入れます。

- 4 電池室ふたを取り付ける**
●日付／時刻を設定します。



ファインダー内には、7つのAFフレームが配置されています。適切なAFフレームを選択することにより、構図優先のAF撮影を行うことができます。また、被写体の状況や撮影意図にあわせてオートフォーカスの作動特性を選択することができます。



測光モードには、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光があります。撮影状況や撮影意図にあわせて選択してください。

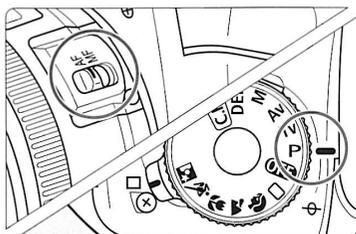


オートフォーカス(AF)と測光方式

AFモードの選択

AFモードとはAFの作動特性のことをいいます。止まっている被写体の撮影に適しているONE SHOT AF (ワンショットオートフォーカス)、動いている被写体の撮影に適しているAI SERVO AF (エーアイサーボオートフォーカス)と、AFをカメラまかせにするAI FOCUS AF (エーアイフォーカスオートフォーカス)の3つの方式があります。被写体の状況にあわせて選択します。

●AFモードは応用撮影ゾーンで選択することができます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを<AF>にする

2 撮影モードを応用撮影ゾーンにする

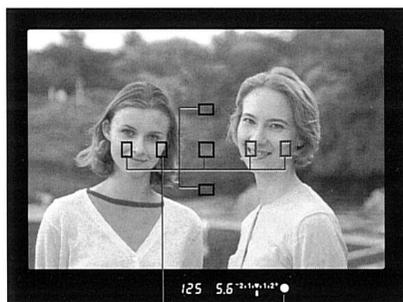
●モードダイヤルを回して撮影モードを選びます。



3 AFモードを選択する

●AFモードダイヤルを回して選びます。

止まっている被写体を撮るときはONE SHOT AF



合焦マーク

AFフレーム



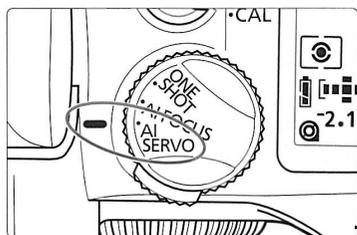
シャッターボタンを半押しするとAFが作動し、1回だけピントを合わせる

- ピントが合うと、ピントを合わせたAFフレームが一瞬赤く光り、合焦マークく●が点灯します。
- 評価測光では、合焦と同時に露出が決まります。そのままシャッターボタン半押しの状態を保つと、露出が固定されたままになり、ピントを合わせたあとに構図を変えて撮影するフォーカスロック撮影(→58)ができます。



ピントが合わないとファインダー内の合焦マークく●が点滅します。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影はできません。構図を変えてもう一度ピント合わせを行うか、『AFの苦手な被写体』(→59)を参照してください。

動いている被写体を撮るときはAI SERVO AF



シャッターボタン半押しの状態を保っている間、被写体にピントを合わせ続ける

- 撮影距離がたえず変わる(移動している)被写体の撮影に適しています。
- 動体予測機能(→48)で、カメラに向かってくる、または遠ざかる被写体にピントを合わせ続けます。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。



- ピントが合っても合焦マークく●は点灯せず、電子音も鳴りません。
- 合焦マークく●が点滅するときはピントが合っていません。
- フォーカスロック撮影(→58)はできません。

AFモードの選択

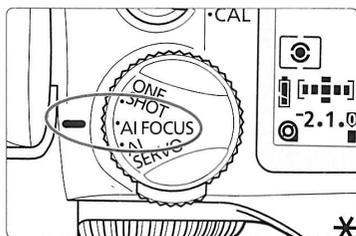
* 動体予測機能について

被写体がほぼ等速度でカメラに近づいてくる場合、または遠ざかっていく場合に、シャッターが切れる直前に正しいピントが得られるよう、その被写体の位置を予測してピントを合わせ続ける機能です。

- AFフレーム自動選択(→49)のときは、はじめに中央で被写体をとらえます。AF中に被写体が中央のAFフレームから外れても、他のAFフレームで被写体を確実にとらえていれば動体予測を続けます。このときAFフレームは赤く光りません。
- AFフレーム任意選択(→49)のときは、赤く光ったAFフレームで動体予測を行います。
- 視線入力によるAFフレームの任意選択(→49)のときは、視線サーボAFになり、移動する被写体がAFフレームに重なっていれば、被写体を視線(目)で追うだけで動体予測機能によりピントを合わせ続けることができます。

C.Fn AI SERVO AF作動中に、<✳・C.Fn>ボタンを押すと、押ししている間AFの作動を一時停止することができます。(C.Fn-4-2→100)

AFモードをカメラまかせにするときはAI FOCUS AF



被写体の状態によってAFモードを自動的に切り換える

→ ONE SHOT AFで被写体にピントを合わせたあと、被写体が連続して移動を始めると、その移動をカメラが検知して自動的にAI SERVO AFに切り換わり、被写体の動きに追従してピントを合わせ続けます。

AFフレームの選択

AFフレームとはピントを合わせる枠のことをいいます。AFフレームの選択方式には自動選択、任意選択、視線入力による任意選択の3つの方式があります。

- 自動選択、任意選択の切り換えは、応用撮影ゾーンで行うことができます。
- 視線入力による任意選択は〈〉(全自動)以外の撮影モードで行うことができます。

自動選択

7つのAFフレームの中から撮影状況に応じてカメラが自動的にAFフレームを選択してピントを合わせます。

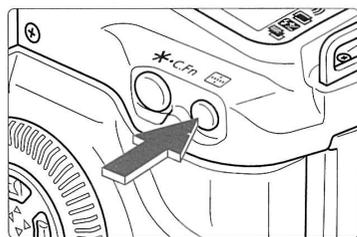
任意選択

7つのAFフレームの中から任意の一点を手動で選択します。

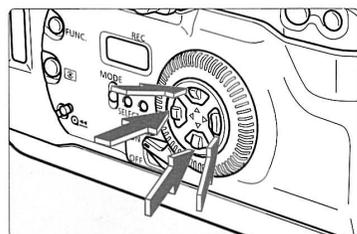
視線入力による任意選択 (→51~57)

7つのAFフレームの中から任意の一点を視線(目)で選択します。

AFフレーム選択の基本操作



1 視線入力スイッチを〈OFF〉にする



2 〈〉ボタンを押す (6)

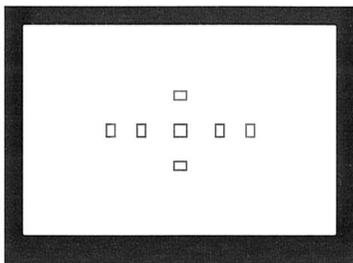
→ファインダー内に現在選択されているAFフレームが赤く表示されます。

3 AFフレームを選択する

- ファインダーまたは表示パネルを見ながら〈〉を押します。
- 〈〉の左/右を押すと横方向に、上/下を押すと縦方向に移動します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

AFフレームの選択

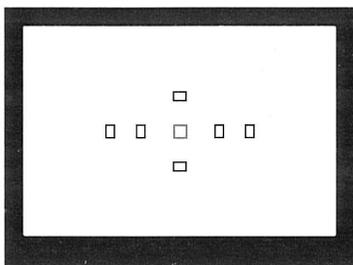
自動選択



すべてのAFフレームを赤く表示させる

- 一番端のAFフレームから1つ進めると自動選択になります。

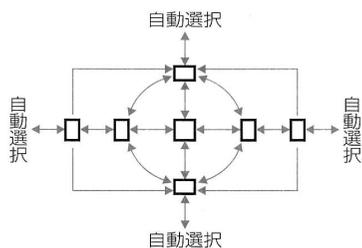
任意選択



中央AFフレーム選択例

希望する1点のAFフレームを赤く表示させる

- <方向キー>によるAFフレームの動きかたは下図を参照してください。



- <AF選択ボタン>を押して、自動選択から任意選択にすると、中央のAFフレームから選択開始になります。

C.Fn 合焦時にAFフレームが赤く光らないようにすることができます。(C.Fn-10-1→101)

C.Fn <AF選択ボタン>を押さずに、<方向キー>単独操作でAFフレームの選択ができます。(C.Fn-11-1→101)

C.Fn <方向キー>の代わりに<AF選択ボタン><方向キー>でAFフレームの選択ができます。(C.Fn-11-2→101)

C.Fn <AF選択ボタン>ボタンで中央のAFフレームへ切り換えることができます。(C.Fn-12-1→101)

CAL 視線入力AFの準備

視線入力による任意選択（視線入力AF）は、ファインダー内の7つのAFフレームのうち、視線（目）がどのAFフレームを見ているかをカメラが瞬時に判断して、そこにある被写体にピントを合わせる機能です。視線入力AFは、カメラを縦横どちらに構えても使用することができます。

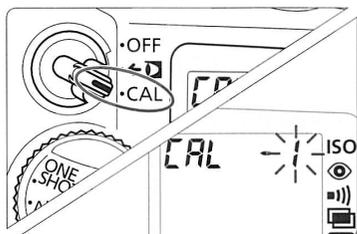
自分の目の視線特性を登録する（キャリブレーション）

視線入力AFを使用するには、ファインダー内を見ている視線の動きをカメラが正確に検知できるようにするため、自分の視線特性をあらかじめカメラに登録する必要があります。登録はカメラ縦位置と横位置でファインダー内に点滅するAFフレームを注視しながらシャッターボタンを押して行きます。同一の登録番号に縦横それぞれの位置で登録を行ってください。

なお、このカメラでは登録番号1～5に5条件分の視線特性を登録することができます。

- 視線入力AF撮影時の視線検出精度を高めるため、『キャリブレーション・視線入力AFのコツ』（→54）をお読みください。
- あらかじめ視度調整（→25）を行ってください。
- 登録するときはファインダーから目を離さずに一連の操作を行ってください。

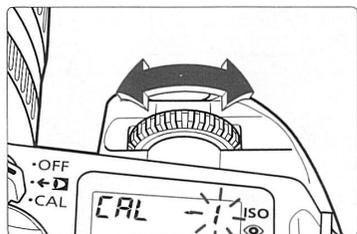
* CALは、Calibration（キャリブレーション）の略で調整のことです。



1 視線入力スイッチを〈CAL〉にする

→表示パネルに「CAL」と登録番号が表示されます。

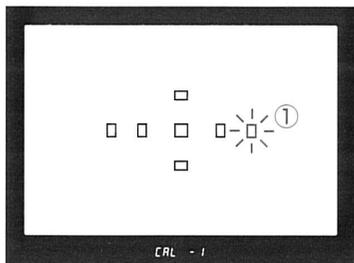
番号が点滅：視線特性が未登録の番号
番号が点灯：すでに登録されている番号



2 点滅している登録番号を選択する

- 〈〉を回して選びます。
- 点滅している番号がない場合は『登録した視線特性の削除』（→55）を参照してください。

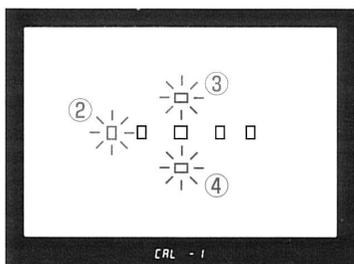
3 横に構えてファインダーをのぞく



4 点滅しているAFフレームを注視しながらシャッターボタンを押す

- はじめに右の点滅しているAFフレームを注視しながらシャッターボタンを押します。
- 登録中はシャッターボタンを全押ししても撮影されません。
- シャッターボタンを押すと、AFフレームが点灯に変わり、「ピピッ」という電子音が鳴ります。
- 「ピピッ」という電子音が鳴るまで、AFフレームを注視します。
- 電子音が鳴らないように設定(→81)してあると、登録時に電子音は鳴りません。

5 シャッターボタンから指を離す



6 手順4～5の操作を繰り返す

- ②→③→④の順にAFフレームが点滅します。

7 表示を確認する

- 登録が完了すると、点滅していた登録番号が点灯に変わり、「End」と表示されます。
- 登録操作を中断している間に、ファインダー内で点滅しているAFフレームが消えたら、シャッターボタンを押して手順3からやり直します。



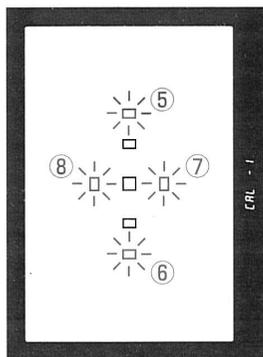
8 シャッターボタンを押す

- 横位置で登録した番号と同一の番号に縦位置の登録を行います。

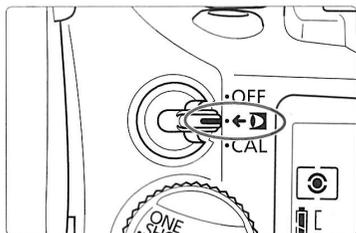
9 縦に構えてファインダーをのぞく

10 点滅しているAFフレームを注視しながらシャッターボタンを押す

- 手順4～6と同様の操作を行います。
- ⑤→⑥→⑦→⑧の順にAFフレームが点滅します。
- カメラを縦に構えるとき、グリップを上にしても下にしても、上のAFフレームから点滅が始まります。



End - 1



11 視線入力スイッチを<←D>にする

- 視線特性の登録は終了し、視線入力AF撮影(→56)ができます。

❗ 電子音が「ピピピピ…」と断続して鳴り、表示パネルに「CAL」と登録番号が点滅するときは、カメラが視線を検出できなかったことを示します。再度シャッターボタンを押して、手順3からやり直します。

- 横位置のみの登録では、縦位置での視線入力AF撮影時に十分な視線検出ができないことがありますので、縦位置でも登録を行ってください。
- キャリブレーションがうまくできないときは、『キャリブレーション・視線入力AFのコツ』(→54)を参照し、もう一度始めからやり直してください。

キャリブレーション・視線入力AFのコツ

- いつでもファインダーののぞき方が変わらないように構える。
- ファインダー内の四隅が均等に見えるようにのぞく。
- 目を細めたり、できるだけまばたきしない。
- キャリブレーションをするときと、視線入力AFで撮影するときは、同じファインダーののぞき方で行う。
- キャリブレーション中は、点滅しているAFフレームが点灯に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴るまで目を動かさず注視する。
- 両目を開けてファインダーをのぞいてみる。
- 眼鏡使用時は正しく眼鏡をかける（鼻眼鏡不可）。

次の場合、キャリブレーション・視線入力AFができないことがあります。

- 遠近両用眼鏡、ハードコンタクトレンズ使用時
- ミラーレンズサングラスなど特殊なコーティングが施されている眼鏡使用時
- 眼鏡などでファインダーから著しく目の位置が遠い場合
- ファインダーから著しく目の位置が近い場合

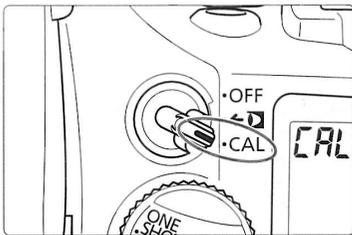
視線特性の学習機能

このカメラには、視線特性データを蓄積する機能があります。同一の登録番号に撮影条件（屋外、室内、昼、夜など）が変わるたびに繰り返し登録すると、より多くのデータを学習し視線入力の検出精度が向上します。

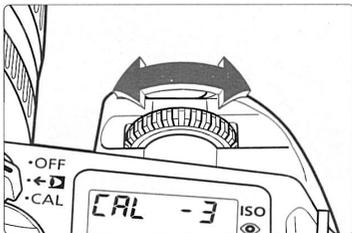
- 同一の登録番号に別の人が登録することはおやめください。別の人が使うときは登録番号を変えるか、その番号の登録内容を消去してから登録します。（→55）

登録した視線特性の削除

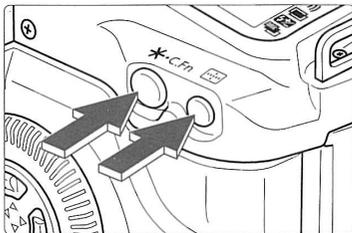
同じ登録番号に異なる視線の状態（例えば裸眼と眼鏡）を登録したり、複数の人の視線特性を登録すると、視線入力AF撮影時にカメラが正確な視線検出を行えなくなります。そのようなときはすでに登録されている内容を消去して、改めて登録しなおします。



1 視線入力スイッチを〈CAL〉にする

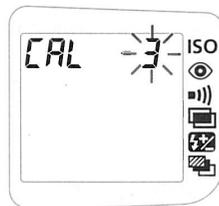


2 消去する登録番号を選択する
●点灯している登録番号を選びます。



3 〈*・C.Fn〉ボタンと〈MENU〉ボタンを同時に押す

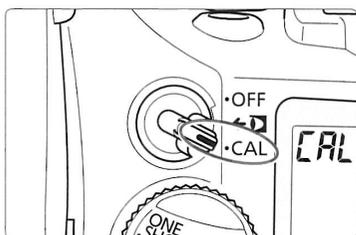
→登録番号が点滅し、登録内容が消去されたことを示します。



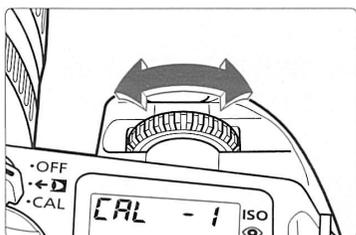
←視線入力AFで撮る

視線入力AFはファインダー内の任意のAFフレームを注視するだけで、そのAFフレームを選択することができます。

- <□>(全自動)を除く全ての撮影モードで視線入力AF撮影ができます。
- <□>(全自動)のときは、視線入力情報が自動選択AFプログラムに加味され、より高度なAFフレームの自動選択になります。

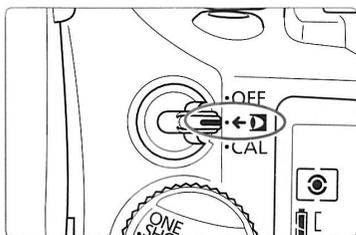


1 視線入力スイッチを<CAL>にする



2 登録番号を選択する

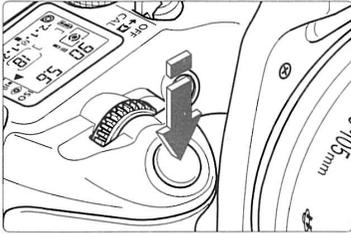
- <>を回して選びます。
- 視線特性が登録されている番号は点灯し、未登録の番号は点滅します。



3 視線入力スイッチを<←>にする

4 撮影モードを選択する

- モードダイヤルを回して撮影モードを選びます。



5 ピントを合わせたいAFフレームを注視しながらシャッターボタンを半押しする

- ファインダー内にく  が点灯します。
- 注視したAFフレームが点灯し、そのAFフレームでピント合わせが行われます。

6 撮影する



- く  (全自動) 以外の撮影モードでカメラが視線を検出できなかった場合、ファインダー内にく  が点滅し、自動選択 (→50) でピント合わせが行われます。
- 視線入力AFでうまくピントが合わないときは、もう一度登録番号を確認し、『キャリブレーション・視線入力AFのコツ』(→54) を参照してください。

視線サーボAF

視線入力AFとAI SERVO AF(またはAI FOCUSのAI SERVO AF時)を併用すると、移動する被写体を視線で追うだけで連続してピントを合わせ続けることができます。これを視線サーボAFといいます。

視線入力AFでとらえた被写体が移動を始めた場合、シャッターボタンの半押しを維持しながら、移動先にある別のAFフレームを目で追うだけで連続してその被写体にピントを合わせ続けます。

視線入力AFの解除

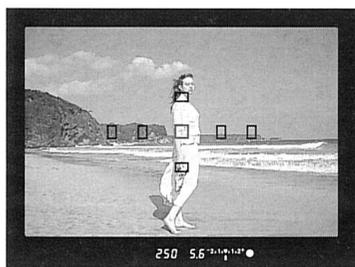
視線入力スイッチをく **OFF** > にすると、AFフレームの自動選択または任意選択 (→49) による撮影となります。

画面の端の被写体にピントを合わせる

7つのAFフレームに入らない、画面の端の被写体にピントを合わせて撮影するときは、次のようにします。この方法をフォーカスロック撮影といいます。

●フォーカスロック撮影は、AFモードが<ONE SHOT>(→46)に設定されているときに有効です。

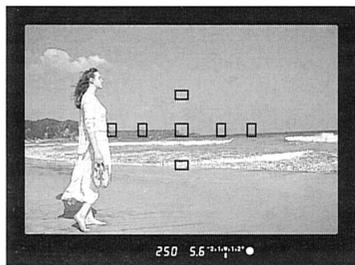
1 AFフレームを選択する(→49)



2 ピントを合わせる

●AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

3 シャッターボタンを半押ししたまま構図を変える



4 撮影する



簡単撮影ゾーンでもフォーカスロック撮影ができます(⟨~~AE~~⟩を除く)。そのときは手順2から行います。



ピントが合うと同時にAFフレームに連動してAEロックがかかる、⟨ONE SHOT⟩と⟨~~AE~~⟩(評価測光)の組み合わせをおすすめします。

AFの苦手な被写体

このカメラは精度の高いAFシステムを搭載し、ほとんどの被写体にピントを合わせることができます。ただし、次のような特殊な被写体に対しては、ピント合わせができない(合焦マーク<●>点滅)ことがあります。

ピントが合いにくい被写体

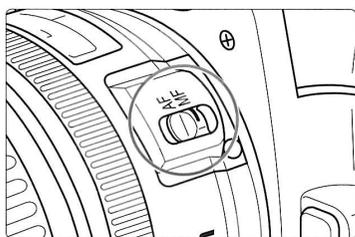
- コントラスト(明暗差)が極端に低い被写体…………… 例：青空、単色の平面
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態で、かつ光の反射が強い被写体…………… 例：反射光の強い車のボディ
- 被写体が遠くと近くに共存する状態…………… 例：おりの中の動物

これらの被写体を撮影する場合は、次のいずれかの方法でピントを合わせます。

- (1) 被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックし、構図を決め直して撮影する。
- (2) レンズのフォーカスモードスイッチを<MF>(または<M>)にして手動でピント合わせを行う。

 EOS専用外付けストロボのAF補助光でピントが合わない場合は、中央のAFフレームを選択してください。中央以外のAFフレームではピントが合わないことがあります。

MF 手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)



1 レンズのフォーカスモードスイッチを<MF>(または<M>)にする
→表示パネルに<MF>が表示がされます。

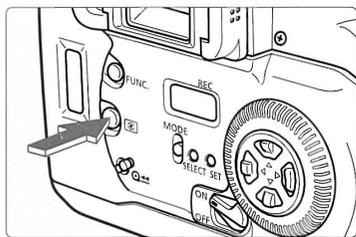
2 ピントを合わせる
● ファインダー内の被写体のがはっきり見えるまで、レンズの手動フォーカスリングを回します。

 シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ピントが合ったAFフレームが光り合焦マーク<●>が点灯します。

測光モードの選択

測光方式には評価測光、部分測光、中央部重点平均測光の3つの方式があります。撮影状況や撮影目的に応じて使い分けてください。

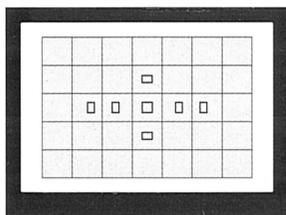
●測光モードの選択は応用撮影ゾーンで行うことができます。



1 <Fn>ボタンを押す (06)

2 測光モードを選択する

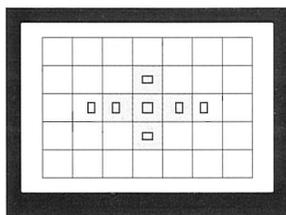
●表示パネルを見ながら<Fn>を回します。



評価測光

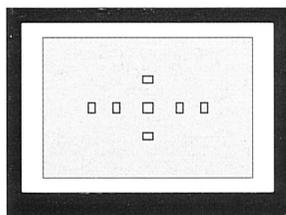
逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。ファインダー視野を35分割して、7つのAFフレームそれぞれに連動した評価測光を行います。ファインダー内に占める主被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。

●手動ピント合わせ時は、常に中央のAFフレームを基準とした評価測光になります。



部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約10%の範囲を測光します。



中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均的に測光します。

C.Fn AFフレームに連動した部分測光/FEロックができます。(C.Fn-8-1→101)

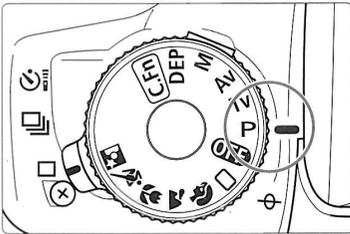
P プログラムAEで撮る



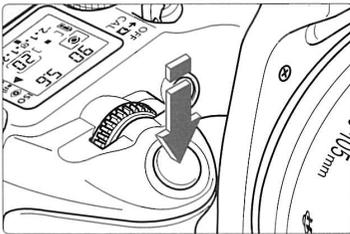
〈□〉(全自動)と同じように気軽に撮影することができます。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動設定します。これをプログラムAEといいます。

*Pは、Program (プログラム)の略です。

*AEは、Auto Exposure (オートエクスポージャー)の略で自動露出のことです。

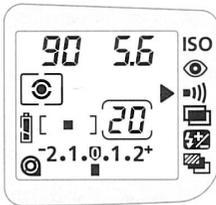


1 モードダイヤルを〈P〉にする



2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。



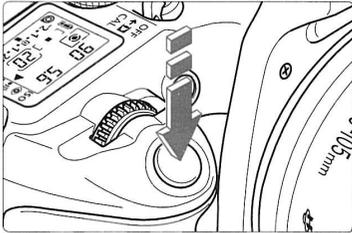
3 表示を確認する

→シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

●シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。

●点滅したときは『露出警告表示一覧表』(→107)を参照してください。





4 撮影する

● 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

〈P〉と〈□〉(全自動)の違い

- 〈P〉と〈□〉は、自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせは同じです。
- 〈P〉では次の機能を使用できますが、〈□〉ではできません。
 - AFフレームの任意選択
 - 測光モードの選択
 - 巻き上げモードの選択
 - プログラムシフト
 - 〈*〉ボタンによるAEロック
 - 露出補正
 - AEB
 - 被写界深度確認
 - 多重露出
 - カスタム機能
 - 内蔵ストロボの強制発光
 - 調光補正
 - EXストロボ使用
 - ・ハイスピードシンクロ
 - ・FEロック
 - ・光量比制御
 - ・FEB
 - ・後幕シンクロ
 - ・モデリング発光

プログラムシフトについて

プログラムAEは自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ(プログラム)を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。

プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度または絞り数値が表示されるまで $\langle \text{シフトボタン} \rangle$ を回して行います。

- プログラムシフトは撮影後、自動的に解除され元のプログラムに戻ります。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

Tv シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮ることができ、シャッター速度を遅くすると流動感を表現することができます。

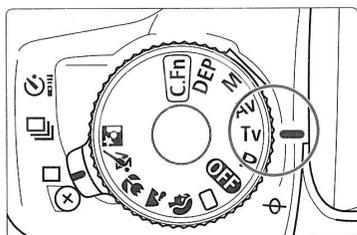
*Tvは、Time value (タイムバリュー)の略で時間量のことです。



速いシャッター速度



遅いシャッター速度



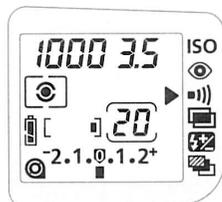
1 モードダイヤルを<Tv>にする

2 シャッター速度を設定する

- 表示パネルを見ながら $\langle \text{シャッター速度} \rangle$ を回して設定します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
→絞り数値が自動的に決まります。





4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。



- 使用レンズの一番小さな絞り数値（最大口径／開放絞り）が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。絞り数値の点滅が止まるまで  を回してシャッター速度を遅くしてください。



- 使用レンズの一番大きな絞り数値（最小口径／最小絞り）が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。絞り数値の点滅が止まるまで  を回してシャッター速度を速くしてください。



シャッター速度の表示

シャッター速度は1/2段ステップで設定することができます。表示されたシャッター速度の「4000」から「2」までは分数の分母を表しています。例えば、「125」は1/125秒を表しています。また、「0'7」は0.7秒を、「15''」は15秒を表しています。

4000	3000	2000	1500	1000	750	500	350	250	180
125	90	60	45	30	20	15	10	8	6
4	3	2	0'7						
1''	1'5	2''	3''	4''	6''	8''	10''	15''	20''
									30''



テレビ画面をきれいに撮影するには、シャッター速度を1/15秒にします。このときは三脚を使用してください。

Av 絞り数値を決めて撮る

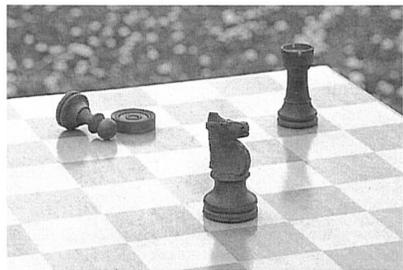
絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。

絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、背景をぼかした美しいポートレート写真が撮れます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る範囲が広がります。

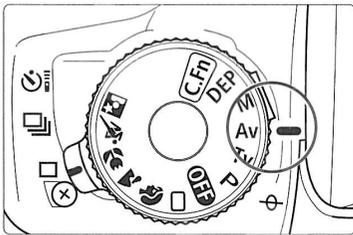
* Avは、Aperture value (アパチャーバリュー)の略で開口量のことです。



小さい絞り数値



大きい絞り数値



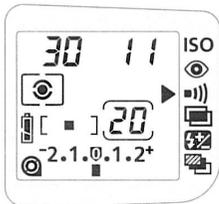
1 モードダイヤルをくAv>にする

2 絞り数値を設定する

- 表示パネルを見ながら $\langle \text{MENU} \rangle$ を回して設定します。

3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
→シャッター速度が自動的に決まります。





4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。



- シャッター速度の「30」が点滅するときには、露出アンダー（露出不足）です。点滅が止まるまでくまのマークを回して絞り数値を小さくしてください。



- シャッター速度の「4000」が点滅するときには、露出オーバー（露出過度）です。点滅が止まるまでくまのマークを回して絞り数値を大きくしてください。



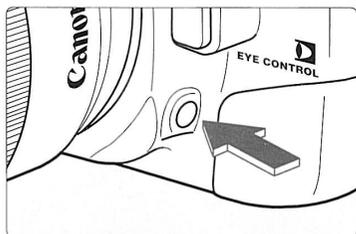
絞り数値の表示

絞り数値は1/2ステップで設定することができます。数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。

1.0 1.2 1.4 1.8 2.0 2.5 2.8 3.5 4.0 4.5 5.6 6.7 8.0 9.5
11 13 16 19 22 27 32 38 45 54 64 76 91

カメラにレンズが付いていないときは「00」を表示します。

被写界深度を確認する



絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値まで絞り込み、ピントの合っている範囲をファインダーで確認することができます。

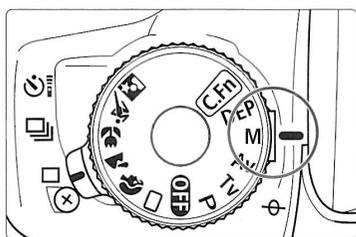


- 応用撮影ゾーンで使用できます。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された(AEロック)状態になります。

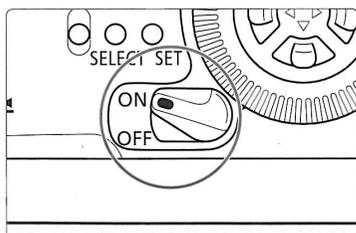
M 自分で露出を決めて撮る

カメラまかせではなく自分でシャッター速度と絞り数値を決めて撮影するときに設定します。シャッター速度と絞り数値の適切な組み合わせは、露出レベルで確認します。

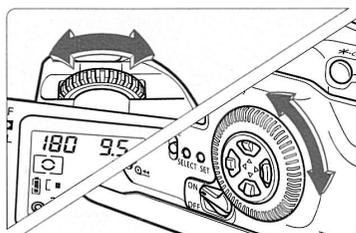
*Mは、Manual (マニュアル) の略です。



1 モードダイヤルを〈M〉にする

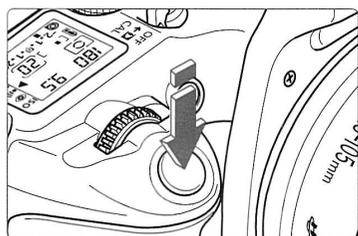


2 サブ電子ダイヤルスイッチを〈ON〉にする



3 〈〉でシャッター速度を、〈〉で絞り数値を設定する

●表示パネルを見ながら設定します。



4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
→ ファインダー内に露出レベルが表示されます。
- 露出レベルマーク<■>で、標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。



5 露出を決める

- 露出レベルを確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。



標準露出 **-2.1.0.1.2+**

: 露出を決めるときの基準です。

露出アンダー **-2.1.0.1.2+**

: シャッター速度を遅くするか、絞り数値を小さくします。

露出オーバー **-2.1.0.1.2+**

: シャッター速度を速くするか、絞り数値を大きくします。

- 露出レベルマーク<■>が<2+>または<-2>の位置で点滅しているときは、露出が<2+>または<-2>を超えていることを示しています。

6 撮影する

DEP ピントの合う範囲を決めて撮る

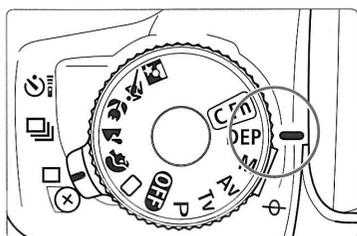
たくさんの人で記念写真を撮ったり風景写真を撮るときなどに、鮮明に写したい範囲を指定して写すことができます。近景から遠景までを鮮明に写すために最適なピント位置とそのために必要な絞り数値、それに応じたシャッター速度をカメラが自動的に設定します。これを深度優先AEといいます。

任意のAFフレームを選択して行う方法、視線入力AFで行う方法があります。

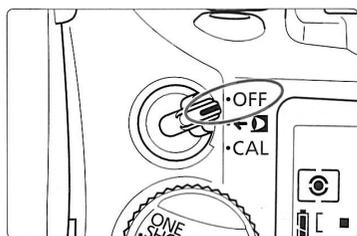
● レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉(または〈M〉)に設定されていると深度優先AE撮影ができません。スイッチを〈AF〉に設定します。

* DEPは、Depth of field(デプスオブフィールド)の略で被写界深度のことです。

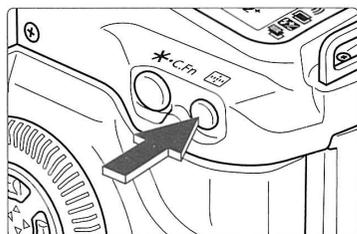
選択したAFフレームによる方法



1 モードダイヤルを〈DEP〉にする

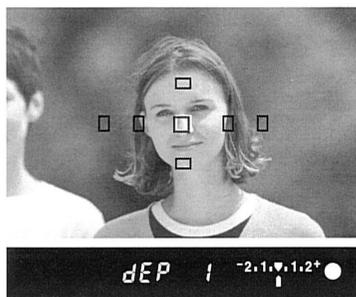


2 視線入力スイッチを〈OFF〉にする



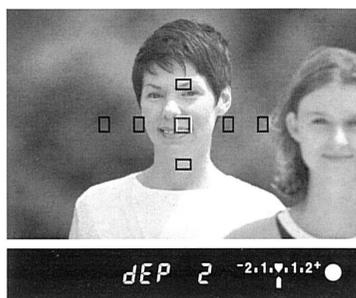
3 AFフレームを選択する

- 〈〉ボタンを押してから、〈〉の上下左右キーを押してAFフレームを選択します。
- 自動選択(→49)のときは、中央のAFフレームでのピント合わせになります。



4 被写体の1点目にピントを合わせる

- 選択したAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを押します。(☉4)
- ➔ 合焦マーク<●>が点灯し「dEP 1」と表示されます。
- 手順4、5ではシャッターボタンを全押ししても撮影されません。



5 被写体の2点目にピントを合わせる

- 選択したAFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを押します。(☉4)
- ➔ 合焦マーク<●>が点灯し「dEP 2」と表示されます。
- 2点目、1点目の順に操作しても同じ効果が得られます。



6 構図を決め、シャッターボタンを半押しする(☉4)

- ➔ 1点目と2点目との中間距離にピントが設定されます。鮮明に写すために必要な絞り数値と、それに対応したシャッター速度が表示されます。
- シャッターボタンから指を離すと表示は「dEP」と絞り数値に変わります。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。

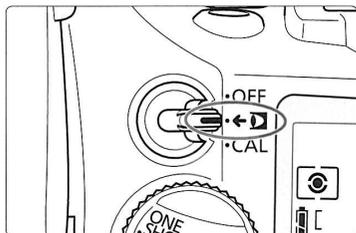
7 撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ、希望どおりの効果が得られます。
- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

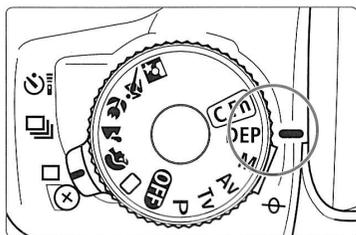
DEP ピントの合う範囲を決めて撮る

視線入力AFによる方法

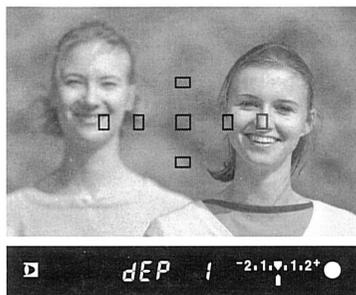
視線入力AFを利用すると、構図を大きく変えることなく、より簡単に深度優先AE撮影ができます。



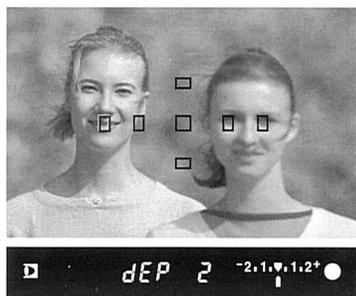
- 1** 視線入力スイッチを<←D>にする
- 自分の視線登録番号が選択されていることを確認します。(→51)



- 2** モードダイヤルを<DEP>にする



- 3** 被写体の1点目にピントを合わせる
- 被写体を注視しながら、シャッターボタンを押します。(※4)
 - 注視したAFフレームが点灯します。
 - 合焦マーク<●>が点灯し「dEP 1」と表示されます。
 - 手順3、4ではシャッターボタンを全押ししても撮影されません。



4 被写体の2点目にピントを合わせる

- 被写体を注視しながら、シャッターボタンを押します。(※4)
- 注視したAFフレームが点灯します。
- 合焦マーク(●)が点灯し「DEP 2」と表示されます。
- 2点目、1点目の順に操作しても同じ効果が得られます。



5 撮影する

- 露出は3回目にシャッターボタンを押すときに注視した被写体を中心に決まります。もしそのときAFフレームを注視していなかった場合は、中央のAFフレームで露出が決まります。
- 絞り数値が点滅していなければ、希望どおりの効果が得られます。
- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ適正露出です。

- ❗ ● 絞り数値が点滅するときは、希望どおりの効果が得られません。(ただしこのまま撮影しても適正露出で撮影されます。) 広角レンズを使用するか、被写体から離れてもう一度手順3から操作を繰り返します。



- シャッター速度の「30''」と使用レンズの一番小さな絞り数値(最大口径/開放絞り)が点滅するときは、露出アンダー(露出不足)で深度優先AE撮影できません。
- シャッター速度の「4000」と使用レンズの一番大きな絞り数値(最小口径/最小絞り)が点滅するときは、露出オーバー(露出過度)です。レンズを通る光の量を減らすNDフィルターを付けて撮影します。

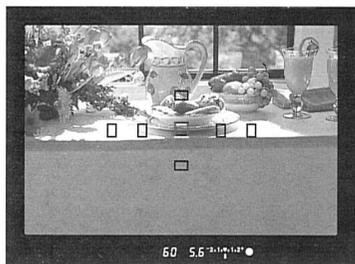
DEP ピントの合う範囲を決めて撮る

- ズームレンズを使用しているときは、撮影が終わるまでズーム操作をしないでください。
 - 深度優先AE撮影操作中にAFフレームを選択しなおすと、設定された深度優先AE撮影のデータが解除されます。そのときは選択しなおしたAFフレームで最初から深度優先AE撮影をします。
 - レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉(あるいは〈M〉)になっていると深度優先AE撮影できません。プログラムAEでの撮影と同じ結果になります。
 - ストロボを使用したときは深度優先AE撮影はできません。〈P〉でのストロボ撮影と同じ結果になります。
 - 撮影距離範囲を設定できるレンズ (EF300mm F2.8L IS USMなど) を使用して深度優先AE撮影するときは、レンズの撮影距離範囲選択スイッチを「最短撮影距離～∞」に設定します。
-  ● 深度優先AE撮影を途中で解除するときは、モードダイヤルを〈DEP〉以外に設定します。
- 被写界深度を確認する (→67) ときは、被写体の2点目にピントを合わせ、3回目のシャッターボタンを半押ししたあと、絞り込みボタンを押します。
 - シャッター速度が遅くなるときは、手ブレ防止のため三脚をご使用ください。
-  ● 被写界深度を深くしたいときは、広角レンズの使用をおすすめします。
- 1点目と2点目のピント合わせを被写体の同じ部分で行うと、ピントが合う範囲は浅くなります。人物撮影などでこの方法を応用すると、人物の前景および背景をぼかした写真を撮ることが出来ます。望遠レンズを使用するといっそう効果的です。

＊ 露出を固定して撮る/AEロック撮影

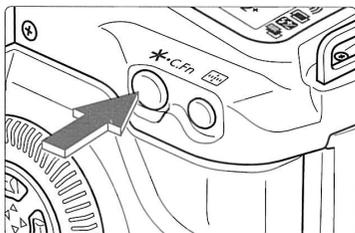
選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。最初に露出を決めたあとで構図を変える必要がある撮影にご利用ください。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などに有効です。

- AFフレームの選択と測光方式の組み合わせによるAEロックの効果については104ページを参照してください。



1 露出を合わせたい被写体にピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。(♻4)
- ファインダー内に露出が表示されます。



2 <＊>ボタンを押す(♻4)

- ファインダー内に<＊>が点灯します。
- 露出が固定(AEロック)されます。
- <＊>ボタンを押し直すたびに、そのときの露出をAEロックします。



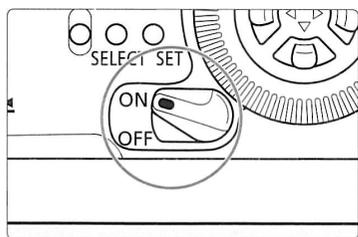
3 構図を決めて撮影する

 ONE SHOT AFおよびAI FOCUS AF(AI SERVO AF時を除く)の場合、シャッターボタンを半押しして被写体にピントが合った時点で自動的にAEロックされます。

C.Fn <＊>ボタンの代わりにシャッターボタンを半押ししてAEロックを行い、<＊>ボタンでピントを合わせることができます。(C.Fn-4-1→100)

自分の好みに露出を補正する

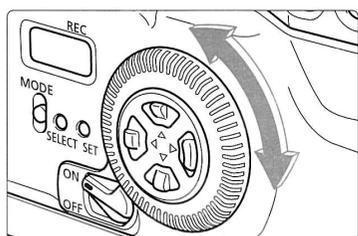
カメラが決めた標準的な露出を意図的に変えることを露出補正といいます。〈〉を操作するだけでファインダーをのぞいたまま補正することができます。設定できる補正量は1/2段ステップ±2段の範囲です。



1 サブ電子ダイヤルスイッチを
〈ON〉にする

2 ピントを合わせる(φ4)

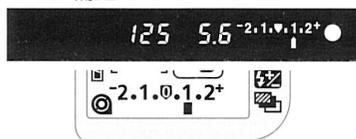
3 露出レベルを確認する



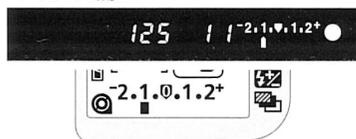
4 補正量を設定する

- 〈〉を回して設定します。
- 〈〉の操作はシャッターボタン半押し中か、シャッターボタン半押し後(φ4)作動中に行います。
- 表示パネルを見ながら行うこともできます。
- 「+」はプラス補正、「-」はマイナス補正を示します。

プラス補正



マイナス補正



-2.1.0.1.2+

マイナス補正

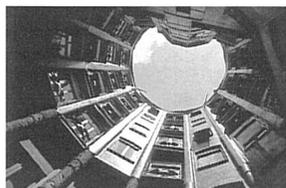
プラス補正

- 設定した補正量はモードダイヤルを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 露出補正を解除するときには、補正量を標準露出指標〈0〉の位置に戻します。

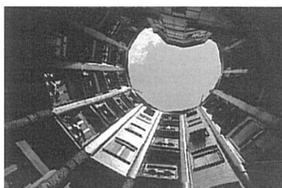
 補正量を設定したあと、サブ電子ダイヤルスイッチを〈OFF〉にすると、〈〉が不用意に動いて補正量が狂うのを防ぐことができます。

露出を自動的に変えて撮る/AEB撮影

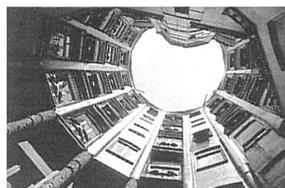
1/2段ステップ±2段の範囲で、自動的に露出を変えながら3コマの写真を撮影することができます。これをAEB (Auto Exposure Bracketing) 撮影といいます。設定した巻き上げモード(→83)で標準露出、マイナス補正、プラス補正の順で撮影します。



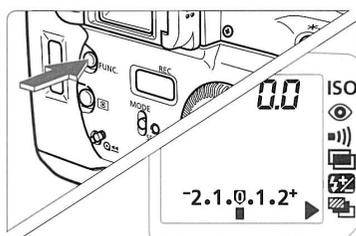
標準露出 (0)



マイナス補正 (-1/2)

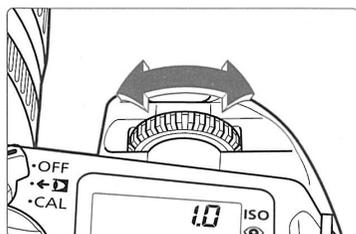


プラス補正 (+1/2)



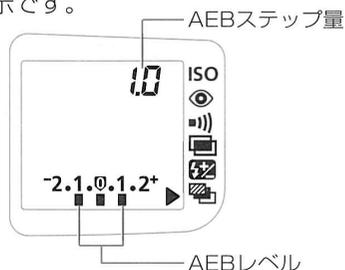
1 <▶▶>マークを<☒>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押して設定します。(☉6)



2 AEBステップ量を設定する

- <☒>を回して設定します。
- 表示パネルにAEBステップ量とAEBレベル<■>が表示されます。
- 図は標準露出を中心に1段補正したときの表示です。



露出を自動的に変えて撮る/AEB撮影

-2.1.0.1.2+ : 標準露出



-2.1.0.1.2+ : マイナス補正



-2.1.0.1.2+ : プラス補正



3 撮影する

- 設定した巻き上げモードに従って撮影されます。
- 表示パネルとファインダー内の露出レベルに、撮影順に補正位置が表示されます。
- 3コマ撮影後でも、AEB撮影は自動解除されません。解除するときは補正量を「00」に戻します。

ストロボ撮影およびバルブ撮影との併用はできません。



- 連続撮影でシャッターボタンを押し続けると、3コマ連続撮影になりますが、ファインダー内情報は表示されません。
- セルフタイマー/リモコンを使用したときは、自動的に3コマ連続撮影されます。
- カスタム機能C.Fn-5-1 (ミラーアップ撮影)を設定した状態でAEB撮影する場合、巻き上げモードを連続撮影にしても1枚撮影になります。
- AEBと露出補正を組み合わせることができません。そのとき、露出レベルの表示範囲を超える露出補正をすると、表示は次のようになりますが、撮影は設定どおりに行われます。

〈P〉〈Tv〉〈Av〉〈DEP〉の場合

-2.1.0.1.2+ : ±1段のAEBを設定した状態



-2.1.0.1.2+ : -1段の露出補正をした状態



-2.1.0.1.2+ : -1.5段の露出補正をした状態



-2.1.0.1.2+ : -2段の露出補正をした状態



〈M〉の場合

-2.1.0.1.2+ : 中心の露出が適正露出に対して-2段の場合



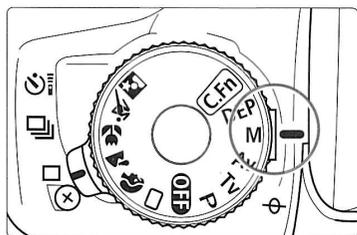
-2.1.0.1.2+ : 中心の露出が適正露出に対して-2段を超える場合



長時間露光(バルブ)撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体の撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

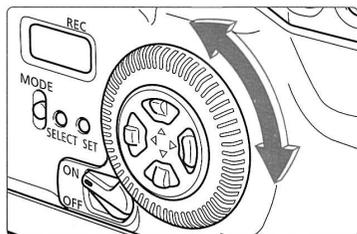
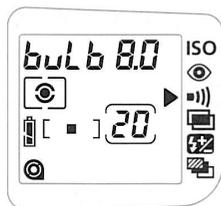
●バルブ撮影にはリモートスイッチRS-60E3(別売)の使用をおすすめします。



1 モードダイヤルを<M>にする

2 「bulb」に設定する

- 表示パネルを見ながら<Fn>を回して「bulb」に設定します。
- 「30''」の次が「bulb」です。



3 絞り数値を設定する

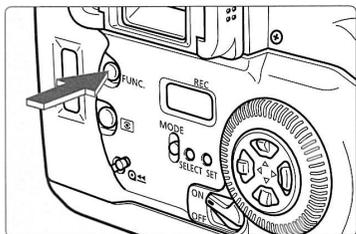
- <Q>を回して設定します。

4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
→撮影中は表示パネルに「bulb」が点滅します。
- 露光はシャッターボタンを押している間だけ行われます。

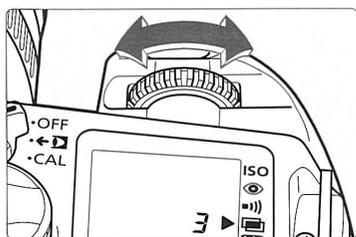
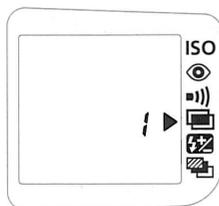
多重露出撮影

撮影後フィルムを次のコマに送らず、同じコマで複数回撮影することを多重露出撮影といいます。1度の操作で9回までの多重露出撮影回数を設定することができます。



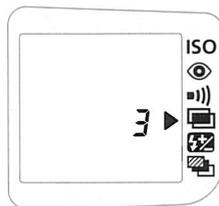
1 <>マークをに合わせる

- 表示パネルを見ながらボタンを押して設定します。(06)
- フィルムカウンターの位置に「1」が表示されます。



2 多重露出回数を設定する

- を回して設定します。



3回の多重露出の場合

3 撮影モードを選択して撮影する

- 設定した多重露出撮影回数の撮影が終了すると、フィルムは自動的に次のコマに巻き上げられ多重露出撮影は自動的に解除されます。

● 多重露出撮影をフィルムの最初と最後の数コマで行うと、フィルムの巻きぐせにより被写体の重なり具合が微妙にずれることがあります。

- 多重露出撮影中は「>>」横の「▶」マークが点滅します。
- 多重露出撮影を撮影開始前に解除するには、多重露出回数を1に設定します。
- 多重露出撮影の途中で設定を解除するときは、その時点で手順1、2の操作で多重露出回数の表示を空白にします。

💡 多重露出撮影では一つのコマに何度も撮影するので、露出値をあらかじめマイナス側に補正(→76)しておく必要があります。

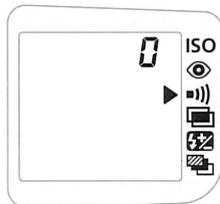
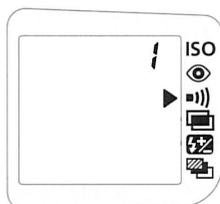
露出補正量のおおよその目安

多重露出の回数	2回	3回	4回
補正量の目安	-1.0	-1.5	-2.0

この補正量はあくまでも一般的な目安です。補正量は撮影状況によって変わります。あらかじめ撮影データを求めておいてください。

● カメラの電子音を消す

すべての撮影モードで電子音を鳴らないようにすることができます。



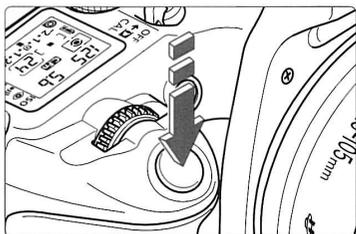
- 1 <>>マークを<>>に合わせる
 - 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押して設定します。(06)

- 2 表示を「0」にする
 - <>>マークを回して設定します。
 - 電子音を鳴らすときは、「!」に設定します。
 - シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

ミラーアップ撮影

カスタム機能C.Fn-5-1 (→100)を利用して、ミラーアップと露光を別々に行うミラーアップ撮影ができます。ミラーショックが気になる近接撮影や超望遠レンズを使用するときにご活用ください。

- ミラーアップ撮影にはリモートスイッチRS-60E3 (別売) の使用をおすすめします。



- 1 シャッターボタンを全押しする**
→ミラーアップします。
 - ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーは自動的に下がります。
- 2 再度シャッターボタンを全押しする**
→撮影が行われ、ミラーが下がります。



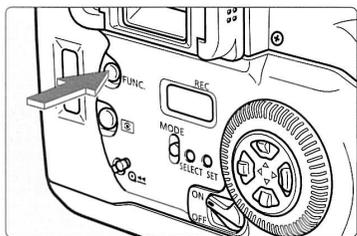
- 晴天の真夏の海岸やスキー場のように極端に明るいところでは、ミラーアップ安定後速やかに撮影してください。
- ミラーアップ撮影ではレンズを太陽に向けないでください。太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷する恐れがあります。
- バルブ撮影とセルフタイマーを併用してミラーアップ撮影するとき、セルフタイマー作動中にシャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが実際は撮影されていませんのでご注意ください。



- ミラーアップ撮影は、巻き上げモード (→83) の設定にかかわらず1枚撮影になります。
- セルフタイマーとミラーアップを併用すると、最初のシャッターボタン全押しでミラーが上がり、10秒後に撮影されます。

ISO フィルム感度の手動設定

DXコードが付いていないフィルムを使用する場合、またはフィルムに記載されている感度とは異なる感度を設定する場合は、フィルムを装填してから次のようにします。設定できるフィルム感度の範囲は、ISO 6~6400です。



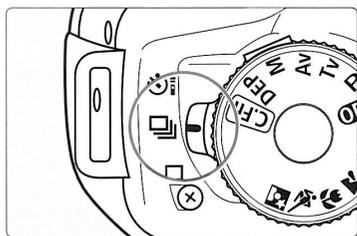
- 1 <▶>マークを<ISO>に合わせる
 - 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押して設定します。(♻6)
 - 設定されているフィルム感度が表示されます。
- 2 フィルム感度を設定する
 - <ISO>を回して設定します。
 - シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

🔊 フィルム感度を手動で設定しても、DXコードが付いているフィルムに入れ換えると、手動で設定したフィルム感度は解除されます。

C.Fn DXコードが付いているフィルムに入れ換えても、手動設定したISO感度を解除しないようにすることができます。(C.Fn-3-1→100)

巻き上げモードの選択

フィルム巻き上げモードには一枚撮影と連続撮影の2つの方式があります。



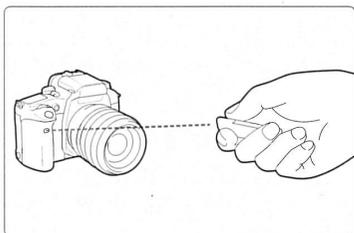
- 一枚撮影
撮影したあとカメラが自動的にフィルムを1コマ巻き上げます。
- 連続撮影
シャッターボタンを押し続けている間、連続撮影します。
 - ONE SHOT : 1秒間に約4コマ
 - AI SERVO : 1秒間に約3.5コマ

ワイヤレスリモコンを使って撮る

すべての撮影モードでワイヤレスリモコン撮影ができます。

1 巻き上げモードレバーを<☺>にする

→表示パネルに<☺>が表示されます。



2 リモコンで撮影する

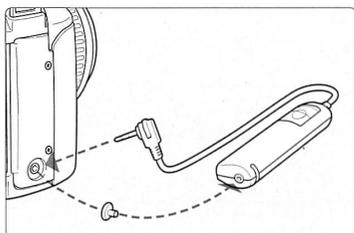
- リモートコントローラーRC-1 (別売)の送信部をカメラの受信部に向けて送信ボタンを押します。作動距離は約5m以内です。
- 作動表示は次のようになります。
2秒後リリース：2秒間赤目緩和ランプ点灯後撮影
即リリース：撮影と同時に赤目緩和ランプが一瞬点灯

⚠ 蛍光灯が近くにあるとき、蛍光灯の種類によってカメラが誤作動することがあります。できるだけカメラを蛍光灯から離してください。

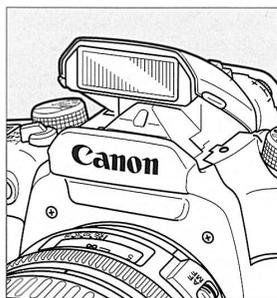
📱 <☺>に設定してから約4分間放置すると、省電力のためワイヤレスリモコンの設定は自動的に解除されます。もう一度設定するときには、シャッターボタンを半押しします。表示パネルに<☺>が表示されていることを確認してから撮影してください。

リモートスイッチを使って撮る

すべての撮影モードでリモートスイッチによる撮影ができます。



リモートスイッチRS-60E3 (別売)のプラグをリモコンジャックに差し込み、リリースボタンを押して撮影します。



内蔵ストロボについて

内蔵ストロボを使用すると、通常のAE撮影と同じ感覚で簡単にストロボ撮影を行うことができます。簡単撮影ゾーン(〈〉、〈〉を除く)ではフルオートで、応用撮影ゾーンでは必要なときにいつでもストロボ撮影を行うことができます。



ストロボを使った撮影



EOS専用外付けストロボについて

- EOS専用外付けストロボを使用して、通常のAE撮影と同じ感覚で簡単にストロボ撮影を行うことができます。特に、EXシリーズスピードライトと組み合わせると、通常のE-TTL自動調光撮影はもちろん、高度なワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影もオートで行うことができます。
- この章では、420EXを使用したときに操作できる機能を中心に説明します。420EXの詳しい操作については、420EXの使用説明書を参照してください。

内蔵ストロボ撮影

簡単撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

簡単撮影ゾーン(〈〉、〈〉を除く)では、暗いときや日中逆光時には必要に応じてストロボが自動的に上がって発光します。

応用撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

応用撮影ゾーンでは、明るさに関係なく必要なときに内蔵ストロボを手で持ち上げるだけでストロボ撮影ができます。

P : カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときに選択します。
シャッター速度と絞り数値は〈〉(全自動)と同様、自動的に決まります。

Tv : 1/125秒以下の任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。
設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で適正露出となる絞り数値が自動設定されます。

Av : 任意の絞り数値を設定したいときに選択します。
夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も適正露出となる自動スローシンクロ撮影ができます。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長時間露光で適正露出になります。
●自動スローシンクロ撮影ではシャッター速度が遅くなりますので、必ず三脚を使用してください。

M : シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。
主被写体は、ストロボ光で適正露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。

DEP : 〈**P**〉と同じストロボ撮影結果になります。

内蔵ストロボの届く距離 (EF28-105mm F3.5-4.5 II USM使用時) [m]

ISO	28mm		105mm	
	ネガ	リバーサル	ネガ	リバーサル
100	1~5.2	1~3.7	1~4.0	1~2.8
200	1~7.4	1~5.2	1~5.7	1~4.0
400	1~10.5	1.2~7.4	1~8.1	1~5.7

ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

撮影モード	同調シャッター速度	絞り数値
P	1/60～1/125秒に自動設定されます。	TTLプログラムにより自動設定されます。
Tv	1/125秒以下の任意の値を手動で設定します。	設定したシャッター速度に対し、明るさに応じた値が自動設定されます。
Av	設定した絞り数値に対し、明るさに応じた値(30"～1/125秒)が自動設定されます。	任意の値を手動で設定します。
M	1/125秒以下の任意の値を手動で設定します。	



- EOS専用外付けストロボを使用するときは、内蔵ストロボを収納してから取り付けてください。
- 被写体の距離が1m以内で内蔵ストロボ撮影すると、画面の一部が欠け(ケラレ)て暗い写真になります。1m以上離れて撮影してください。
- レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がケラれてしまいます。内蔵ストロボを使用するときは、必ずフードを外してから撮影してください。
- 次のレンズを使用すると、内蔵ストロボの光がケラれることがあります。
EF17-35mm F2.8L USM, EF28-70mm F2.8L USM などの大口径レンズ
EF300mm F2.8L IS USM, EF600mm F4L IS USM などの超望遠レンズ
これらのレンズでストロボを使用するときは、EOS専用外付けストロボをおすすめします。
- 内蔵ストロボの照射角の広角側限界は焦点距離28mmまでです。28mm未満の広角レンズを使用すると、できあがった写真の周囲が暗くなります。

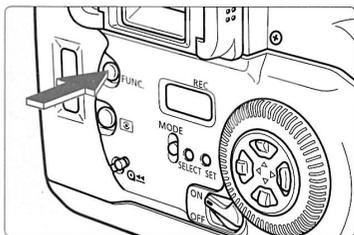


- 内蔵ストロボを収納するときは、指で押し下げます。
- <Tv><M>で1/125秒より速いシャッター速度を設定しても、自動的に1/125秒に設定されます。
- ピントが合わせにくい状況では、AF補助光(→34)が自動投光されます。
- 内蔵ストロボとEOS専用外付けストロボを同時に使用することはできません。

ストロボ調光補正

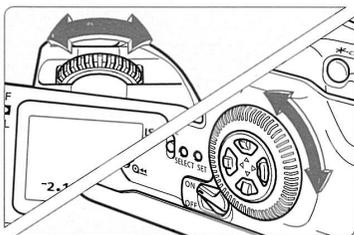
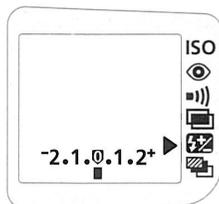
露出補正と同じ感覚で内蔵ストロボおよびEOS専用外付けストロボの発光量をカメラで補正することができます。設定できる補正量は1/2段ステップ±2段の範囲です。

- 調光補正は応用撮影ゾーンで機能します。



1 <>マークを<FUNC.>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押して設定します。(06)



2 補正量を設定する

- <FUNC.>または<MODE>を回して補正量を設定します。
- 「+」はプラス補正、「-」はマイナス補正を示します。
- <FUNC.>ボタンを押すと設定した調光補正量を表示パネルで確認することができます。
- 設定した調光補正量はモードダイヤルを<OFF>にしても記憶されています。
- 解除するときは補正量を標準露出指標<0>の位置に戻します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

プラス補正

-2.1.0.1.2+

マイナス補正

-2.1.0.1.2+

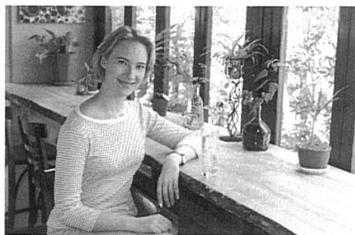
EOS専用EXシリーズスピードライトを使用した撮影

キヤノンEXシリーズスピードライトを使用すると、内蔵ストロボ撮影と同じ感覚で、より高度なストロボ撮影を簡単に行うことができます。

●ここではスピードライト420EXが装着されていることを前提に説明します。

●E-TTL自動調光撮影

E-TTL自動調光(プリ発光・記憶式評価調光)により、AFでピントを合わせた被写体に最適なストロボ光を与えます。暗いところでは、カメラを絞り優先AEにすると自動スローシンクロになり、「主被写体も背景も適正露出の、雰囲気の良い自然な写真」がオートで撮影できます。



●ハイスピードシンクロ(FP発光)撮影

30秒から1/4000秒の全シャッター速度に同調するハイスピードシンクロ(FP発光)撮影ができます。

●FE(Flash Exposure)ロック撮影

被写体の任意の部分のストロボ露出を適正にする、FEロック撮影ができます。このFEロックは、ストロボ光のAEロック機能です。

●ストロボ調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を補正することができます。補正できる範囲は、1/2段ステップ±2段です。

●FEB(Flash Exposure Bracketing)撮影(550EX、MR-14EX使用時)

ストロボ光のAEBである、FEB撮影を行うことができます。設定できる補正量は、1/2段ステップ±3段の範囲です。

●ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影

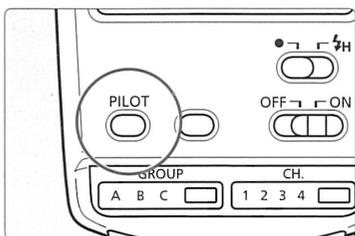
マスターストロボ(550EX、ST-E2、MR-14EX)とスレーブに設定した420EXを組み合わせると、上記すべての機能を活用したワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影ができます。接続コードが不要であるため、自由に高度なライティング設定が可能です。



- E-TTLのEは、Evaluative(エバリュエイティブ)の略で評価のことです。
- AF撮影のストロボ露出は、常に撮影時の絞り数値を基準に、AFフレーム連動・主被写体重視のE-TTL自動調光で制御されます。
- ピントが合わせにくい状況では、スピードライトからAF補助光が被写体に向けて自動投光されます。

全自動ストロボ撮影

ここでは、〈P〉(プログラムAE)と組み合わせた全自動E-TTLストロボ撮影を説明します。420EXの操作については、420EXの使用説明書を参照してください。



- 1 モードダイヤルを〈P〉にする
- 2 420EXのパイロットランプの点灯を確認する
- 3 被写体にピントを合わせる
- 4 撮影する
●ファインダー内の \downarrow の点灯と、シャッター速度、絞り数値を確認して撮影します。



撮影モード別ストロボ撮影

〈Tv〉、〈Av〉、〈M〉の撮影モードと組み合わせたときも、ストロボを使用しない通常撮影と同じ操作で、E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

(1)シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度や絞り数値は、通常のストロボを使用しない撮影と同じようにカメラによって設定されます。

撮影モード	シャッター速度の設定	絞り数値(調光絞り値)の設定
Tv (シャッター優先AE)	手動(30秒~1/125秒)	自動
Av (絞り優先AE)	自動(30秒~1/125秒)	手動
M (マニュアル露出)	手動(30秒~1/125秒)	手動

(2)シャッターボタンを全押しすると、(1)で設定された絞り数値を基準にした「プリ発光・記憶式評価調光」により、E-TTLストロボ撮影が行われます。

(3)背景の露出は、その時のシャッター速度と絞り数値の組み合わせによって決まります。



- ストロボの自動低減コントロールについて
トップライト気味の逆光状態にある被写体を撮影したとき、ストロボ光による露出が不自然にならないようにするため、ストロボの発光量を自動的に減らします。この機能をストロボ調光自動低減コントロールといいます。
- 撮影モードを簡単撮影ゾーンにしたときは、内蔵ストロボ使用したときと同じ感覚で、気軽にストロボ撮影ができます。
- <DEP>でストロボ撮影したときは、<P>と同じ撮影結果になります。

⚡Hハイスピードシンクロ(FP発光)撮影

420EXのハイスピードシンクロスイッチを<⚡H>にすると、1/125秒よりも速いシャッター速度が設定されても、自動的に全てのシャッター速度に同調したハイスピードシンクロ(FP発光)撮影できます。ハイスピードシンクロ状態になるとカメラのファインダー内に<⚡H>が表示されます。

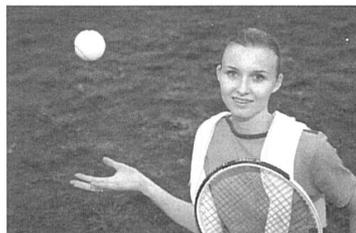
ハイスピードシンクロ撮影は次のような状況のポートレート撮影などで効果を発揮します。

- ハイスピードシンクロ(FP発光)は応用撮影ゾーンで機能します。

- (1)日中シンクロによるポートレート撮影で絞りを開いて(絞り数値を小さくして)背景をぼかす。
- (2)目にキャッチライトを入れる。
- (3)シャドー部に補助光を与える。



通常発光

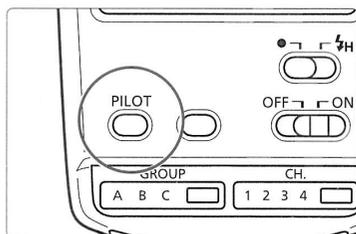


FP発光

＊ FEロック撮影

FE (Flash Exposure) ロック撮影は、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

●FEロックは応用撮影ゾーンで機能します。

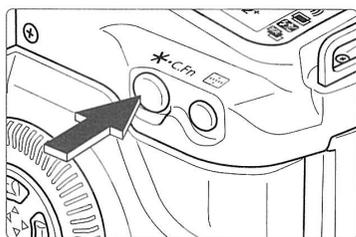


1 420EXのパイロットランプの点灯を確認する

●発光モードは、通常発光、ハイスピードシンクロのどちらでもかまいません。それぞれの発光モードに対応したFEロックを行うことができます。

2 ピントを合わせる

●露出を合わせたい被写体にピントを合わせます。



3 被写体を中央のAFフレームに合わせて〈＊〉ボタンを押す(⌀16)

→ファインダー内に〈＊〉が点灯します。
→ストロボがプリ発光し、被写体に必要な露光量を記憶・固定 (FEロック) します。
→FEロックされたAFフレームが一瞬赤く光ります。
→ファインダー内の表示が0.5秒間、①のようになり、そのあと②の表示になります。
●〈＊〉ボタンを押し直すたびに、プリ発光し、そのときに必要な露光量をFEロックします。





4 撮影する

- 構図を決めて撮影します。
- 通常、FEロックは中央のAFフレームで行ってください。



被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときは、ファインダー内に<⚡>が点滅します。被写体に近づいて、もう一度手順2、3の操作をします。

C.Fn 任意選択したAFフレームでFEロックすることができます。(C.Fn-8-1→101)

ストロボ調光補正

カメラ側操作による調光補正は『ストロボ調光補正』(→88)と同じです。
なお、キャノンスピードライト550EX、540EZ、430EZ、マクロリングライトMR-14EXは、ストロボ側でも調光補正を設定することができます。

- 調光補正は応用撮影ゾーンで機能します。



カメラ側とEOS専用外付けストロボ側の両方で調光補正を行ったときは、外付けストロボ側の設定が優先され、カメラ側の設定は機能しません。

FEB撮影 (550EX、MR-14EX使用時)

550EX、MR-14EXでは背景の露出を変えずに1/2段ステップ±3段の範囲で、自動的に発光量を変えながら3コマのストロボ撮影を行うことができます。これをFEB (Flash Exposure Bracketing) 撮影といいます。

- FEBは応用撮影ゾーンで機能します。



標準露出



マイナス補正 (-1)



プラス補正 (+1)

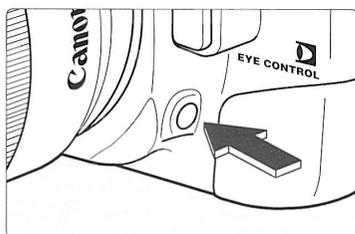
- FEBの設定はストロボ側で行います。詳細はストロボの使用説明書を参照してください。
- 巻き上げモードは<□>(一枚撮影)をおすすめします。

モデリング発光 (550EX、420EX、MR-14EX使用時)

ストロボ撮影による被写体の影の出かたや、ワイヤレス多灯撮影時のライティングのバランスを確認することができます。

- モデリング発光は応用撮影ゾーンで機能します。

1 ストロボ撮影のためのカメラとストロボの設定を確認する



2 カメラの絞り込みボタンを押す
→ストロボが70Hzで約1秒間発光します。

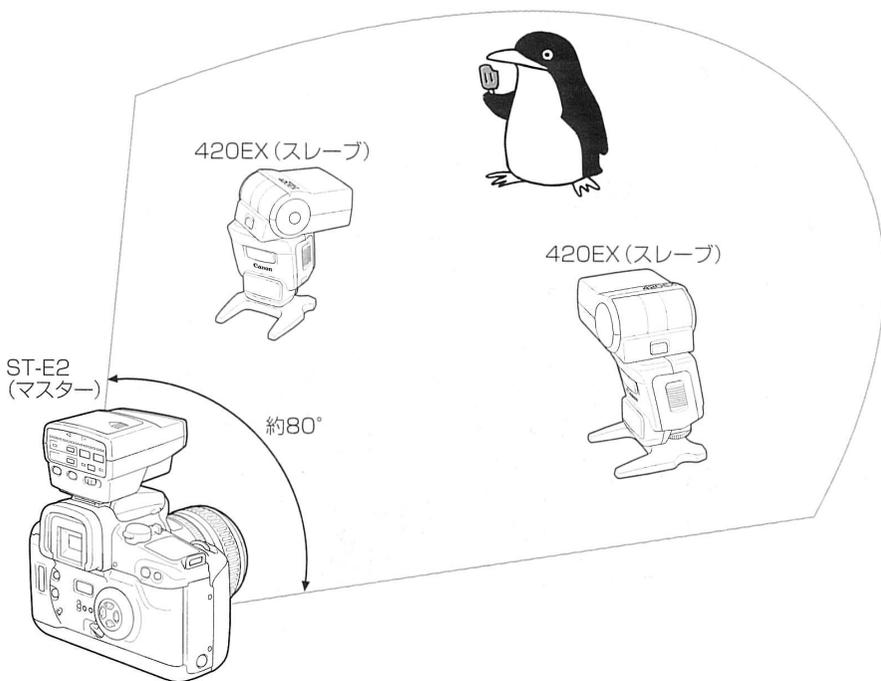
ワイヤレス多灯撮影

マスターストロボ(550EX、ST-E2、MR-14EX)とスレーブに設定した420EXを使用して、ワイヤレス多灯・E-TTL自動調光撮影を簡単に行うことができます。

420EXの設定はワイヤレスセクターをくSLAVE)に設定するだけです。撮影する被写体に対して、マスターストロボを中心に、スレーブ設定した420EXを配置します。

- ワイヤレス多灯撮影の詳細については、マスターストロボおよび420EXの使用説明書を参照してください。

ワイヤレス多灯撮影の例



その他のEOS専用スピードライトを使用した撮影

EXシリーズ以外のEOS専用スピードライトを取り付けると、通常のAE撮影と同じ操作感覚で、TTL自動調光撮影を簡単に行うことができます。

ストロボ光の露出制御は、AFフレーム連動のリアルタイム・フィルム面反射測光により行われます。

(1) シャッターボタンを半押しすると、シャッター速度や絞り数値は、通常のストロボを使用しない撮影と同じようにカメラによって設定されます。

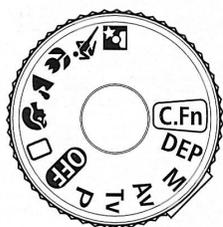
撮影モード	シャッター速度の設定	絞り数値(調光絞り値)の設定
P (プログラムAE)	自動(1/60秒~1/125秒)	自動
Tv (シャッター優先AE)	手動(30秒~1/125秒)	自動
Av (絞り優先AE)	自動(30秒~1/125秒)	手動
M (マニュアル)	手動(30秒~1/125秒)	手動

(2) シャッターボタンを全押しすると、(1)で設定された絞り数値を基準にしたTTL自動調光撮影が行われます。

(3) 背景の露出は、その時のシャッター速度と絞り数値の組み合わせによって決まります。



- 撮影モードを簡単撮影ゾーンにしたときは、内蔵ストロボ使用時と同じ感覚で、気軽にストロボ撮影ができます。
- <DEP>でストロボ撮影したときは、<P>と同じ撮影結果になります。
- カメラ側操作による調光補正ができます。
- 接続コード式(ワイヤード)の多灯アクセサリを併用すると、TTL自動調光による多灯撮影ができます。
- ピントが合わせにくい状況では、スピードライトに内蔵されたAF補助光が、被写体に向けて自動投光されます。
- ストロボ調光自動低減コントロールについて
トップライト気味の逆光状態にある被写体を撮影したとき、ストロボ光による露出が不自然にならないようにするため、ストロボの発光量を自動的に減らします。この機能をストロボ調光自動低減コントロールといいます。



カスタム機能設定位置

このカメラの機能は、さまざまな撮影スタイルに応じて細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。

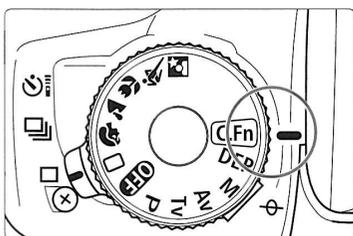
本文中では **C.Fn** マークを付けて簡単なガイドをしています。

6

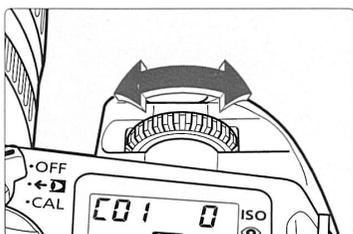
カスタム機能

設定したカスタム機能は応用撮影ゾーンで有効になります。簡単撮影ゾーンでは設定内容にかかわらず、カスタム機能は動きません。

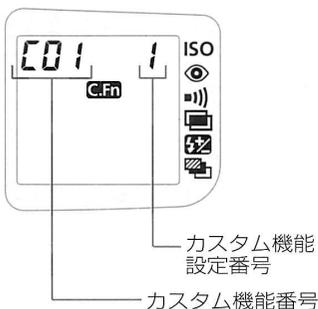
カスタム機能の設定



- 1** モードダイヤルを<C.Fn>にする
→表示パネルに<C.Fn>とカスタム機能番号が表示されます。



- 2** カスタム機能番号を選択する
●<C.Fn>を回して選びます。



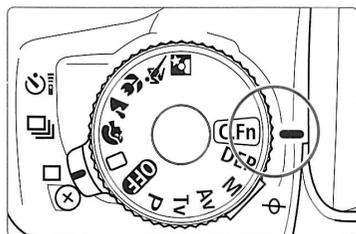
- 3** カスタム機能設定番号を変更する
●<C.Fn>ボタンを押します。
●<C.Fn>ボタンを押すたびに設定番号が変わります。

- 4** モードダイヤルを<C.Fn>以外にする
→表示パネルに<C.Fn>が表示されたままになり、カスタム機能の設定が終了します。

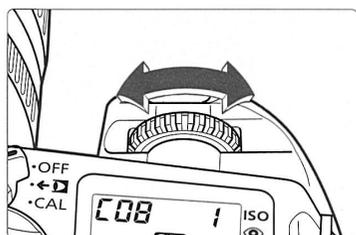


C.Fnは、Custom Function (カスタムファンクション) の略でカスタム機能のことです。

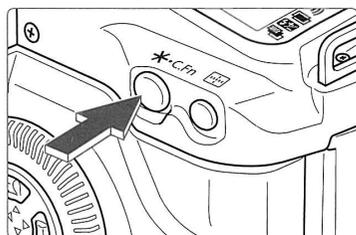
カスタム機能の解除



- 1** モードダイヤルを〈C.Fn〉にする
→表示パネルに〈C.Fn〉とカスタム機能番号が表示されます。



- 2** 解除するカスタム機能番号を選択する
●〈〉を回して選びます。



- 3** 設定番号を「0」にする
●〈C.Fn〉ボタンを押すたびに設定番号が変わります。

- 4** モードダイヤルを〈C.Fn〉以外にする
→表示パネルの〈C.Fn〉が消え、カスタム機能の解除が終了します。
●他にカスタム機能が設定されているときは、〈C.Fn〉は表示されたままになります。

カスタム機能で変更できる内容

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-1	フィルム巻戻し速度	0	低速(サイレント)
		1	高速
C.Fn-2	フィルム巻戻し完了時のフィルム先端	0	残さない (パトローネに巻き込む)
		1	残す (パトローネに巻き込まない)
C.Fn-3	DXコードによるISOフィルム感度の自動設定	0	する
		1	しない
C.Fn-4	シャッターボタンと<＊>ボタンの機能	0	シャッターボタン半押しでAFスタート、<＊>ボタンでAEロック
		1	<＊>ボタンでAFスタート、シャッターボタン半押しでAEロック
		2	シャッターボタン半押しでAFスタート、<＊>ボタンでAF作動を停止
C.Fn-5	ミラーアップ撮影	0	しない(通常撮影)
		1	する
C.Fn-6	内蔵/外部ストロボのシンクロタイミング	0	先幕シンクロ (通常ストロボ撮影)
		1	後幕シンクロ
C.Fn-7	AF補助光の投光/ストロボの本発光	0	内蔵・外部ストロボ： 投光する/本発光する
		1	内蔵・外部ストロボ： 投光しない/本発光する
		2	内蔵ストロボ：投光しない/本発光する 外部ストロボ：投光する/本発光する
		3	内蔵・外部ストロボ： 投光する/本発光しない

カスタム機能で変更できる内容

C.Fn	対象機能	No.	設定内容
C.Fn-8	AFフレームに連動した 部分測光/FEロック	0	しない (中央AFフレームで部分測光/FEロック)
		1	する
C.Fn-9	絞り優先AE時の ストロボ同調秒時	0	シャッター速度自動設定
		1	シャッター速度を1/125秒に固定
C.Fn-10	合焦時のAFフレームの 点灯	0	する (スーパーインポーズ)
		1	しない
C.Fn-11	AFフレームの選択方法	0	<  > ボタン + <  >
		1	<  > で直接 (<  > ボタンで自動選択)
		2	<  > ボタン + <  > <  >
C.Fn-12	<  > ボタンで 中央のAFフレームへの 切り換え	0	しない
		1	する
C.Fn-13	レンズのAFストップボタン の機能	0	AFストップ
		1	AFスタート
		2	測光タイマー中 AEロック
		3	AFフレーム選択の切り換え (自動選択 ↔ 任意選択)
		4	AFモードの切り換え (ONE SHOT AF ↔ AI SERVO AF)
		5	手ブレ補正機能作動

資料

写真の基本用語解説

露出

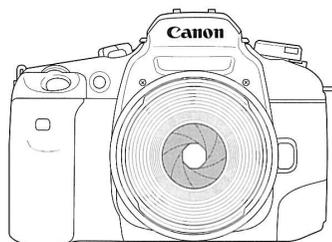
写真を撮るためにフィルムに光を当てることを露出(または露光)といいます。また、フィルム感度に応じた適切な光を当てることを適正露出といいます。露出は「シャッター」と「絞り」の組み合わせで調整します。

シャッター速度

カメラ本体に組み込まれているシャッターはフィルムに当たる光の量を、シャッターが開いている時間の長さで調整します。このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度といいます。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示されるシャッター速度は、「4000」(1/4000秒)～「30''」(30秒)、「bulb」(バルブ)となっています。

絞り数値

レンズに組み込まれている絞りは開口部を開けたり閉じたりして、フィルムに当たる光の量を調整します。この開口部の大きさを表した数字(焦点距離÷開口径)を絞り数値といいます。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示される絞り数値は、カメラに取り付けたレンズの種類によって異なりますが、「f10」～「f1」となっています。



フィルム感度 (ISO値)

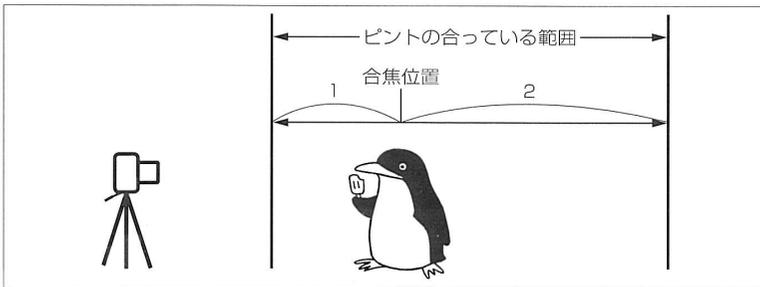
フィルム感度は、フィルムがどのくらいの光にまで感応するかを示すものです。感度はISO(国際標準化機構)で定めた数値で表示されています。数値が大きくなるほど、光に対する感度が高くなり、ISO400以上の高感度フィルムでは比較的暗いところでも写真が写るようになります。このカメラの表示パネルに表示されるフィルム感度は、「5」～「6400」となっています。

被写界深度

ピントを合わせた被写体を中心にして前後にもピントが合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度といい、絞り数値を大きくする（絞りを閉じる／小口径絞り）ほどピントの合っている範囲が前後に広がります。これを被写界深度が深くなるといいます。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く／大口径絞り）とピントの合う範囲が狭くなります。これを被写界深度が浅くなるといいます。

被写界深度には次のような性質があります。

- (1) 絞り数値が大きくなるほど被写界深度は深くなる。
…絞り込むほど被写界深度は深くなる。
- (2) 同じ絞り数値ならレンズの焦点距離が短いレンズほど被写界深度は深くなる。
…望遠レンズより広角レンズの方が被写界深度は深くなる。
- (3) 同じ絞り数値なら遠方の被写体にピントを合わせるほど被写界深度は深くなる。
- (4) 被写界深度はピントを合わせたところを中心にして手前側に浅く奥側に深い。ピントの合う範囲は一般的に手前1に対して奥側が2になる（下図参照）。



絞り数値F2



絞り数値F22

資料

撮影機能組み合わせ一覧

モード ダイヤル	AF						フィルム巻き上げ			測光方式		
	ワン ショット	AI サーボ	AI フォーカス	AFフレーム選択			一枚 撮影	連続 撮影	セルフ タイマー	評価 測光	部分 測光	中央部重点 平均測光
				自動	手動	視線						
			●	●		※	●		○	●		
	●			●		○		●	○	●		
	●			●		○	●		○	●		
	●			●		○	●		○	●		
		●		●		○		●	○	●		
	●			●		○	●		○	●		
P	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Tv	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
Av	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DEP	●			○	○	○	○	○	○	○	○	○
M	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

●：自動設定 ○：選択可能または設定可能

C.FnにてAF補助光の投光禁止を設定可能

※ (→56)

AFフレームの選択と測光方式の組み合わせによるAEロックの効果

(応用撮影ゾーン時)

測光方式		AFフレームの選択	任意選択／視線入力	自動選択
評価測光			選択されているAFフレームを中心に した露出値でAEロックする。	ピントを合わせたAFフレームを中心 にした露出値でAEロックする。
部分測光	カスタム機能番号 C.Fn-8-0に設定		中央のAFフレームを中心にした露出 値でAEロックする。	中央のAFフレームを中心にした露出 値でAEロックする。
	カスタム機能番号 C.Fn-8-1に設定		選択したAFフレームを中心にした露 出値でAEロックする。*	
中央部重点平均測光			中央のAFフレームを中心にした露出 値でAEロックする。	

* 視線入力AF時、シャッターボタン半押し前にAEロックボタンを押すと、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックします。

内蔵ストロボ			露補正	AEロック	FEロック	ファンクション						途中巻き戻し	カスタム機能
自動発光	強制発光	AF補助光				ISO感度	赤目緩和	電子音	多重露出	調光補正	AEB		
●		●					○	○				○	
●		●					○	○				○	
								○				○	
●		●					○	○				○	
								○				○	
●		●					○	○				○	
	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	○	●			○	○	○	○	○	○	○	○	○

AFモードとフィルム巻き上げの関係

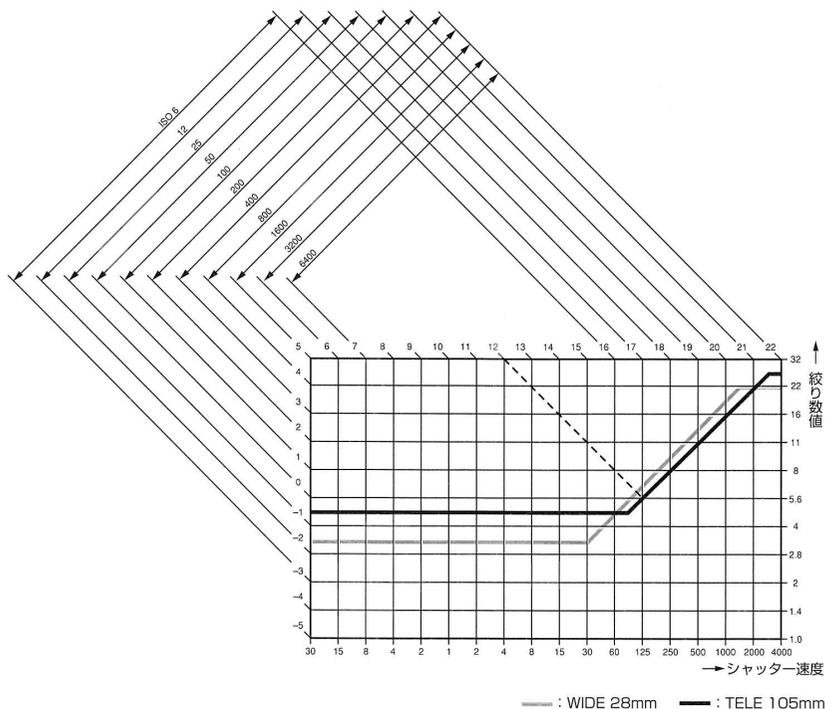
フィルム巻き上げ	ONE SHOT AF	AI SERVO AF
<input type="checkbox"/> (一枚撮影)	AF完了まではリリース不可、AF完了と同時にAFロック(フォーカスロック)およびAEロック(撮影前の露出値を記憶)。	AFは被写体の動きに合わせて追従、露出はシャッターが切れる瞬間に決定。
<input checked="" type="checkbox"/> (連続撮影)	上と同じ条件で連続撮影となる。	上と同じ条件で連続撮影となる。

AI FOCUSの場合は、被写体の状況によりONE SHOT AFからAI SERVO AFに自動的に切り換わります。

資料

プログラム線図

EF28-105mm F3.5-4.5 II USMを使用して、〈P〉プログラムAEに設定したときのプログラム線図を示します。



図の見方

図の横軸はシャッター速度、縦軸は絞り数値を表しています。

図の左端と上端に目盛られている被写体輝度 (EV数値) の変化に対し、プログラムAEで自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせを線で示しています。

例：TELE 105mmで、被写体輝度がEV12の場合、上端の12の点から右下45°の方向にのびた線とプログラム線図の交点を見ると、シャッター速度1/125、絞り数値F5.6が自動的に設定されることがわかります。

左上の斜めに引かれた矢印が示す範囲は各フィルム感度に対する測光輝度範囲です。

露出警告表示一覧表

撮影モード	表示警告例(点滅)	意味	対応
P		被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
		被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。
Tv		露出アンダーになります。	〈〉を回してシャッター速度を遅くしてください。
		露出オーバーになります。	〈〉を回してシャッター速度を速くしてください。
Av		露出アンダーになります。	〈〉を回して絞り数値を小さくしてください。
		露出オーバーになります。	〈〉を回して絞り数値を大きくしてください。
DEP		希望する被写界深度が得られません。	1) 被写体からできるだけ離れて再度操作してください。 2) スムーズレンズを使用している場合は、広角側にセットしてください。
		被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。撮影結果は〈P〉によるストロボ撮影と同じになります。
		被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。



警告表示例は、使用するレンズの最小絞り数値がF3.5、最大絞り数値がF22のときの表示例です。使用するレンズによって、最小絞り数値、最大絞り数値が異なります。

資料

「故障かな？」とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の表を参考にしてカメラをチェックしてみてください。それでも症状に変化がなければ、最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください(裏表紙にサービスセンターの一覧があります)。

表示パネルに 表示が出ない	電池が消耗している。 →新しい電池に交換する。(→22) 電池が逆向きに入っている。 →電池を正しい向きに入れなおす。(→22)
写真がボケて 写っている	レンズのフォーカスモードスイッチが<MF>(または<M>)になっている。 →<AF>(または<A>)にする。(→24) シャッターボタンを押すときに手ブレを起こしている。 →シャッターボタンを静かに押す。(→26)
シャッターが 切れない	表示パネルに<Ⓚ>が点滅している。 →フィルムを正しく入れなおす。(→27) 表示パネルに<Ⓛ>が点滅している。 →新しい電池に交換する。(→22) 巻き戻されたフィルムが入ったまま<Ⓚ>が点滅している。 →新しいフィルムに交換する。(→27) ファインダー内の合焦マークが点滅してピントが合わない。 →AFフレームの位置を変えてみる。(→49) それでもピントが合わないときは、手動でピントを合わせる。(→59)
表示パネルに <Ⓛ>が点滅 している	電池容量が極端に少なくなっている。 →新しい電池に交換する。(→22) 何らかの理由でカメラが誤作動している。 →シャッターボタンを半押ししてみる。(→26) →一度電池を取り出してから、再度入れなおしてみる。(→22) <Ⓛ>の 点滅が消えれば正常に撮影を続けることが可能。 <Ⓛ>の点滅が消えない場合は、最寄りのキヤノンサービスセンターに ご相談ください。(→裏表紙)

主なアクセサリ



●バッテリーパック BP-300

縦位置シャッターボタン、AE/FEロックボタンを備えたバッテリーパックです。電源には、単3形アルカリ乾電池、または単3形Ni-cd電池/単3形ニッケル水素電池を4本使用します。また、カメラ本体の電源であるCR123Aを2本使用することもできます。



●EXシリーズスピードライト 550EX, 420EX, 220EX

E-TTL自動調光対応のEOS専用ストロボとして、大光量オートズームストロボ550EX、手ごろで高性能な420EX、コンパクトな220EXの3機種が用意されています。最大ガイドナンバー (ISO100・m) は、550EXが55、420EXが42、220EXが22です。どのストロボでも、E-TTL自動調光、ハイスピードシンクロ (FP発光)、FEロック撮影ができます。なお、550EX、420EXでは、簡単な操作で、E-TTL自動調光対応のワイヤレス多灯撮影ができます。



●マクロリングライト MR-14EX

発光管2灯を用いたガイドナンバー (ISO100・m) 14のE-TTL自動調光対応・EOS専用マクロリングストロボです。片側1灯発光から、2灯間の光量比制御まで、高度なライティングをE-TTL自動調光で簡単に行うことができます。また、ハイスピードシンクロ (FP発光)、FEロック撮影のほか、550EX、420EXをスレーブにしたワイヤレス増灯機能など、多様なマクロストロボ撮影に対応しています。



●リモートスイッチ RS-60E3

マクロ撮影や長時間露光(バルブ撮影)のときに三脚と併用してカメラブレを防ぐリモートスイッチです。カメラのリモコンジャックに接続して使います。



●リモートコントローラー RC-1

離れたところからカメラのシャッターを切ることができます。セルフタイマー撮影、バルブ撮影、接写や複写などに利用すると便利です。



●カメラケース EH14-L

カメラを保護するためのケースとして、レンズを付けたまま収納することができる専用セミハードケースです。

EF 28-105 F3.5-4.5 II USM

主な性能の一覧

■型式

型式	モータードライブ・ストロボ・オートデート内蔵、フォーカルプレーンシャッター式35mm一眼レフレックスAF・AEカメラ
画面サイズ	24×36mm
使用レンズ	キヤノンEFレンズ群
レンズマウント	キヤノンEFマウント(完全電子制御式)

■ファインダー

方式	ペンタプリズム使用、アイレベル式
視野率	上下90%、左右92%
アイポイント	19.5mm
倍率	0.70倍(-1dpt.、50mmレンズ使用時・∞)
標準視度	-1dpt.
視度調整	-2.5~+0.5dpt.視度調整機能内蔵
フォーカシングスクリーン	固定式、AFフレーム付き全面ニューレーザーマットスクリーン
ミラー	クイックリターン式全面ハーフミラー(反射:透過=60:40) (ミラー切れ:600mm F4L IS USMまでなし)
ファインダー情報	①視野内: AFフレーム ②視野外下部: シャッター速度、絞り数値(FEL、DEP、CAL、END)、AE/FEロック、露出レベル(AE露出補正量、調光補正量、マニュアル露出レベル、AEBレベル、赤目緩和ランプ点灯)、ストロボ充電完了、FEロック時連動範囲外警告、ハイスピードシンクロ(FP発光)、視線入力、調光補正、AF/MF合焦
被写界深度確認	絞り込みボタンによる

■露出制御

方式	35分割SPC使用・TTL開放測光 ①評価測光(全てのAFフレームに連動) ②部分測光(中央部・ファインダー画面の約10%相当) ③中央部重点平均測光
露出制御方式	①プログラムAE(プログラムシフト可) ②シャッター優先AE ③絞り優先AE ④深度優先AE(プログラムシフト不可) ⑤全自動(プログラムシフト不可) ⑥イメージセレクトプログラムAE ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景 ⑦E-TTLプログラムストロボAE ⑧A-TTLプログラムストロボAE ⑨TTLプログラムストロボAE ⑩マニュアル露出 ⑪バルブ
測光範囲	EV1~20(常温・50mm F1.4・ISO100)
使用フィルム感度	ISO6~6400(DXコード自動設定: ISO25~5000)
露出補正	①手動補正: 1/2段ステップ±2段 ②AEB: 1/2段ステップ±2段(標準 → マイナス補正 → プラス補正)
AEロック	①自動AEロック ONE SHOT AF時、合焦と同時にAEロック ②手動AEロック AEロックボタン押しによる、全ての測光方式で可能

資料

- 多重露出 最大予約回数9回(途中解除/再設定可)、設定回数撮影終了後自動解除
手ブレ警告 簡単撮影ゾーンにおいて、自動設定されたシャッター速度が、「1/使用
レンズの焦点距離」以下になった場合、シャッター速度2Hz点滅

■オートフォーカス

- 方式 CMOSセンサーによるTTL-SiR方式
AFフレーム 7点
測距輝度範囲 EV1~18 (ISO100)
フォーカスモード ①ONE SHOT AF
一度合焦するとAF作動終了 → AFロック
②AI SERVO AF
露光開始まで被写体の移動に追従し、常にピントを合わせ続ける
合焦表示・電子音なし、測距不能時合焦マーク2Hz点滅
③AI FOCUS AF
被写体の状態により、ONE SHOT AF → AI SERVO AF自動切り換え
④手動ピント合わせ
フォーカスモードスイッチ<M/MF>時、フォーカスリング操作による
AF合焦表示 ①ファインダー内スーパーインポーズ (C.Fn-10-1にて解除可)
②ファインダー内合焦マーク
③電子音(ピピッ)(ファンクションにて解除可)
AFフレーム選択 ①自動選択: カメラによる自動選択
②任意選択: 7つのAFフレームから任意の1点を選択
AFフレーム選択ボタン+AFフレーム選択十字キー操作による
(C.Fn-11-1,2で操作方法変更可)
③視線入力による任意選択(視線入力AF): 視線入力によるAFフレーム選択
AFフレーム選択表示 ファインダー内スーパーインポーズ、表示パネルによる
AF補助光 内蔵ストロボ自動間欠発光方式 (C.Fn-7にて解除可)
有効距離: 中央部約4.5m, 周辺部約4m

■視線入力

- 方式 IREDによる視線位置検出
キャラクター 最大登録数: 5条件分(学習機能あり)

■シャッター

- 方式 縦走りフォーカルプレーン式・全速電子制御シャッター
シャッター速度 1/4000~30秒、Bulb(1/2段ステップ)、X=1/125
レリーズ方式 ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー 電子制御式10秒

■フィルム給送関係

- フィルム装填 自動(フィルム装填後1コマ目まで空送り・停止)
巻き上げ方式 内蔵モーターによる自動巻き上げ
①1枚撮影 ②連続撮影(秒間最高約4コマ)
巻き戻し フィルム終了と同時に自動巻き戻し開始
(C.Fn-1にて「サイレント/高速巻き戻し」の設定可)
(巻き戻し中に途中巻き戻しボタンにより、巻き戻し速度変更可)
巻き戻し時間/作動音 ... サイレント: 約13(18)秒/約48dB
24(36)EXフィルム 高速: 約5(8)秒/約55dB

■ 内蔵ストロボ

方式	ペンタ部内蔵リトラクタブル式、直列制御TTL自動調光オートポップアップストロボ(測距点連動3分割自動調光)
ガイドナンバー	GNo.13 (ISO100・m)
充電時間	約2秒
照射角	焦点距離28mm画角に対応
発光条件	①全自動、ポートレート、クローズアップ、夜景 低輝度・日中逆光時、自動ポップアップ・自動発光 ②応用撮影ゾーン 手動アップ、強制発光
調光補正	1/2段ステップ±2段

■ 日付/時刻写し込み機能

方式	クォーツ時計内蔵オートカレンダー、液晶表示式
対応年月日時分	1994年1月1日～2019年12月31日 0:00～23:59
写し込みデータ	①月日年 ②日月年 ③年月日 ④日時分 ⑤写し込みなし
写し込み色	オレンジ色
電源	リチウム電池CR2025、1個

■ 本体関係

フラッシュ接点	アクセサリ一部シンクロ接点
対応ストロボシステム	E-TTL/A-TTL/TTL自動調光
カスタム機能	13種類34項目(C.Fn-1～13)
リモートコントロール	①RS-60E3によるワイヤード撮影 ②RC-1によるワイヤレス撮影
電源	リチウム電池CR123A/DL123A、2本
撮影可能本数	(→23)
バッテリーチェック	モードダイヤルOFF位置解除で自動バッテリーチェック バッテリーチェックマークにより4段階残量表示
大きさ	146.7(幅)×103.0(高さ)×69.0(奥行き)mm
質量	580g(本体のみ、電池別)

- ここに記載のデータは、すべて当社試験基準によります。
- 都合により製品の仕様、および外観の一部を予告なく変更することがあります。

アフターサービスについて

- 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
- 本製品の補修用性能部品(製品の機能を維持するために不可欠な部品)は、日本国内において、7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、キヤノンサービスセンターにお問い合わせください。
- 修理品をご送付の場合は、見本のフィルムやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

索引

英数字

〈〉AEB撮影	77
AEロック	75
〈〉～撮影	75
～の効果	104
AF	
～の苦手な被写体	59
自動選択	49
任意選択	49
AFフレーム	
～選択の基本操作	49
〈〉～の選択	49
AFモード	
～ダイヤル	19
～とフィルム巻き上げの関係	105
～の選択	46
AI FOCUS AF	48
AI SERVO AF	47
〈〉絞り数値を決めて撮る	66
〈〉視線入力AFの準備	51
〈〉ピントの合う範囲を決めて撮る	70
FEB撮影	94
〈〉FEロック撮影	92
FP発光撮影	91
〈〉フィルム感度の手動設定	83
〈〉自分で露出を決めて撮る	68
〈〉手動でピントを合わせる	59
ONE SHOT AF	46
〈〉と〈〉(全自動)の違い	63
〈〉プログラムAEで撮る	62
〈〉シャッター速度を決めて撮る	64

あ

アイカップ	25
アイピースカバーを使う	42
〈〉赤目緩和機能を使う	34
アクセサリ	109
〈〉一枚撮影	83
イメージゾーン	18
応用撮影ゾーン	18

か

各部の名称	14
-------	----

カスタム機能	97
～の設定	98
～の解除	99
～で変更できる内容	100
カメラの構え方	30
〈〉カメラの電子音を消す	81
簡単撮影ゾーン	18
〈〉クローズアップで撮る	38

さ

撮影機能組み合わせ一覧	104
視線	
～サーボAF	57
～特性の学習機能	54
～特性を登録する	51
〈〉～入力AFで撮る	56
～入力AFによる方法	72
～入力AFの解除	57
～入力AFのコツ	54
〈〉～入力AFの準備	51
～入力スイッチ	19
～入力による任意選択	49
登録した視線特性の削除	55
自動選択	49
視度調整	25
絞り数値	102
〈〉～を決めて撮る	66
シャッター速度	102
〈〉～を決めて撮る	64
シャッターボタン	26
～半押し	26
～全押し	26
ストラップ(吊りひも)の取り付け方	21
ストロボ	
～同調シャッター速度と絞り数値	87
〈〉～調光補正	88, 93
～を使った撮影	85
E-TTLストロボ撮影	90
撮影モード別ストロボ撮影	90
全自動ストロボ撮影	90
内蔵ストロボ撮影	86
〈〉スポーツで撮る	39
性能の一覧	111
〈〉セルフタイマーを利用して撮る	41
〈〉全自動で撮る	32
操作説明上のお断り	20

測光	
< [M] > ~モードの選択	60
< [Q] > 評価測光	60
< [Z] > 部分測光	60
< [C] > 中央部重点平均測光	60

た

< [B] > 多重露出撮影	80
電池	
~容量を確認する	23
~をセットする	22
クオートデート用電池の交換	44
< [C] > 中央部重点平均測光	60
長時間露光 (バルブ) 撮影	79
動体予測機能について	48

な

内蔵ストロボ	
~撮影	86
~によるAF補助光について	34
~の自動発光について	34
~の届く距離	86
任意選択	49

は

< [H] > ハイスピードシンクロ (FP発光) 撮影	91
バルブ撮影	79
被写界深度	103
~を確認する	67
日付/時刻	
~を入れて撮る	43
~を変更する	44
< [Q] > 評価測光	60
表示パネル	16
ピント	
< [DEP] > ~の合う範囲を決めて撮る	70
画面の端の被写体にピントを合わせる	58
< [MF] > 手動でピントを合わせる	59
ファインダー	
~内表示	17
鮮明なファインダーに調整する	25
フィルム	
~感度 (ISO値)	102
< [ISO] > ~感度の手動設定	83

~感度の設定確認	28
< [Q] > ~途中巻き戻し	29
~を入れる	27
~を取り出す	29
撮影可能フィルム本数	23
< [L] > 風景で撮る	37
< [Z] > 部分測光	60
< [P] > プログラムAEで撮る	62
プログラムシフトについて	63
プログラム線図	106
< [B] > ポートレートで撮る	36

ま

巻き上げモード	
~の選択	83
~レバー	19
マニュアルフォーカス	59
ミラーアップ撮影	82
モードダイヤル	18
モデリング発光	94

や

< [N] > 夜景で撮る	40
---------------	----

ら

リモートスイッチを使って撮る	84
レンズ	
~の取り付け方	24
~の取り外し方	24
< [C] > 連続撮影	83
露出	102
~警告表示一覧表	107
< [★] > ~を固定して撮る	75
< [A] > ~を自動的に変えて撮る	77
< [B] > 多重露出撮影	80
< [M] > 自分で露出を決めて撮る	68
自分の好みに露出を補正する	76
ロック	18

わ

ワイヤレス多灯撮影	95
< [i] > ワイヤレスリモコンを使って撮る	84